

肥後細川文化を核とした地域計画
～武と文が息づく、水の都の文化回廊～

肥後細川文化観光協議会

目 次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	5
3. 計画区域	9
4. 基本的な方針	10
4-1. 現状分析	
4-1-1. 主要な文化資源	10
4-1-2. 観光客の動向	18
4-1-3. 他の地域との比較	24
4-2. 課題	27
4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため 取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	28
4-4. 文化の振興を起点とした観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	30
5. 目標	31
6. 目標の達成状況の評価	37
7. 中核とする文化観光拠点施設	38
8. 文化観光推進事業	
8-1. 事業の内容	
8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業	46
8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進 その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業	51
8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売店、宿泊施設 その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業	53
8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業	54
8-1-5. 1～4の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	55
8-2. 特別の措置に関する事項	
8-2-1. 必要とする特例措置の内容	59
8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等	59
8-3. 必要な資金の額及び調達方法	60
9. 計画期間	62

肥後細川文化を核とした地域計画
～武と文が息づく、水の都の文化回廊～

1. 実施体制

協議会	名称	肥後細川文化観光協議会		
申請者① 協議会の構 成員である 市町村又は 都道府県	名称	熊本県	所在地	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1
	代表者	知事 木村 敬		
申請者② 協議会の構 成員である 市町村又は 都道府県	名称	熊本市	所在地	熊本市中央区手取本町 1 番 1 号
	代表者	市長 大西 一史		
申請者③ 中核とする 文化観光拠 点施設の設 置者	施設の 名称	熊本県立美術館	施設 所在地	熊本市中央区二の丸 2 番
	設置者の 名称	熊本県	設置者 所在地	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1
	代表者	知事 木村 敬		
申請者④ 中核とする 文化観光拠 点施設の設 置者	施設の 名称	水前寺成趣園	所在地	熊本市中央区水前寺公園 8-1
	設置者の 名称	出水神社	設置者 所在地	熊本市中央区水前寺公園 8-1
	代表者	宮司 細川 護光		
申請者⑤ 文化観光推 進 事業者	名称	公益財団法人 永青文庫	所在地	東京都文京区目白台 1-1-1
	代表者	理事長 細川 護光		

申請者⑥ 文化観光推進 事業者	名称	水前寺参道商店会	所在地	熊本市中央区水前寺公園7番2号
	代表者	会長 市丸 耕太郎		
申請者⑦ 文化観光推進 事業者	名称	水前寺活性化プロジェクトチ ーム	所在地	熊本市中央区水前寺公園6-24
	代表者	代表 永野 陽子		
申請者⑧ 文化観光推進 事業者	名称	水前寺成趣園まつり実行委員 会	所在地	熊本市中央区水前寺公園8-1
	代表者	会長 吉丸 良治		
申請者⑨ 文化観光推進 事業者	名称	一般財団法人 熊本国際観光コンベンション 協会	所在地	熊本市中央区細工町4丁目30-1 扇寿ビル5階
	代表者	代表理事 吉丸 良治		

2. 事務の実施体制

2-1. 推進の基本枠組み

全体の調整及び進捗管理は「肥後細川文化観光協議会」が担う。協議会は、肥後細川文化を核に周辺の文化資源を包括的に活用し、地域全体の文化観光を推進する。

計画の推進にあたっては、＜肥後細川文化を核とした地域計画策定の趣旨＞の円滑な実現に向け、文化観光拠点施設や文化観光推進事業者を統一的かつ総合的にマネジメントできる人材を配置するとともに、構成施設や地元関係者との連携により持続的な取組を進める。

また、事業の進捗に応じて文化観光推進事業者を適宜追加し、体制の強化を図る。

なお、本協議会は令和8年（2026年）5月11日に設置している。

＜肥後細川文化を核とした地域計画策定の趣旨＞

本計画は、熊本城エリアと水前寺エリアを文化観光の両輪として位置づけ、肥後細川文化を核に、二拠点の回遊性向上と文化資源の活用を図るものである。県・市・地域が協働し、展示・解説、利便性、多言語発信等を強化することで、文化観光を通じた持続可能な地域づくりを推進する。

2-2. 協議会の役割

肥後細川文化観光協議会

（１）「肥後細川文化を核とした地域計画（以下、「本計画」という。）」の作成及び変更

（２）本計画に関わる協議及び調整並びに本計画における事業の実施、進捗管理及び評価

協議会は、①計画全体の統括、②文化観光拠点施設・連携施設・文化観光推進事業者間の連携調整、③KPIに基づく進捗管理・評価（PDCA）、④国（文化庁）への報告・協議、⑤次年度事業方針の決定を担う中核的意思決定機関として機能する。

〔構成員〕 出水神社、（公財）永青文庫、水前寺参道商店会、水前寺活性化プロジェクトチーム、水前寺成趣園まつり実行委員会、熊本県観光文化政策課、熊本県教育庁教育総務局文化課、熊本県立美術館、熊本県立図書館、熊本市文化市民局文化創造部文化政策課、熊本市文化市民局文化創造部文化財課、熊本市教育委員会事務局教育総務部熊本博物館、熊本市経済観光局観光交流部観光政策課、（一財）熊本国際観光コンベンション協会観光誘致課（以上14団体）

計画推進上必要となる場合は、地域の文化資源保有者・地元事業者・交通事業者など、文化観光の質向上に資する組織・団体を追加し、協議会を拡充する。

〔事務局〕 熊本市（経済観光局観光交流部観光政策課）

2-3. 事務局（熊本市）の役割

（１）熊本市経済観光局観光交流部観光政策課【施行規則第1条第2項第1号】

事務局として、「肥後細川文化観光協議会」の全体調整および進捗管理を担う。

また、国に対する申請・報告等の文書作成、市予算や議会調整、事業全体の取りまとめを行う。

さらに、事業実施にあたっては、文化観光拠点施設や文化観光推進事業者、地域との調整、進捗管理、実績報告、事業評価、次年度事業案の策定を行う。

加えて、本計画は出水神社が進める「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との連携を図り、商業エリア・神社エリアの活用方針や、出水神社が保有する資料の活用可能性について、熊本県立美術館との協力を含めた調整を進めることで、文化資源の保存と活用の両立を目指し、地域資源の価値向上に寄与する。

初年度は特に、①協議会の立上げ事務、②各団体の事業内容の統合管理、③KPI測定方法の標準化、④広報の統合調整（文化観光の一元的発信）、⑤必要な専門人材（翻訳、デジタル、編集等）の外部活用体制の構築を重点的に行う。

2-4. 関係部局・拠点・連携施設の役割

- (2) 熊本市文化市民局文化創造部文化政策課、
熊本市文化市民局文化創造部文化財課、

熊本市教育委員会事務局教育総務部熊本博物館【施行規則第1条第2項第1号】

所管する施設を本計画の目的達成に不可欠な「連携施設」として位置づけ、計画の趣旨に沿った事業を推進する。具体的には、各施設における事業の実施や進捗管理、実績報告、事業評価を行い、次年度事業案を策定する。

また、必要に応じて、市予算や議会調整を行い、事務局と連携しながら「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との調整や文化資源の活用を通じて地域計画の円滑な実現を図る。なお、連携施設は文化観光拠点施設とは異なり、中核的機能を担うものではないが、計画の目的達成に向けて重要な役割を果たす。

- (3) 熊本県観光文化部観光文化政策課【施行規則第1条第2項第1号】

共同申請者として、「肥後細川文化観光協議会」の全体調整を担うとともに、県予算や議会調整、県全体の取りまとめを行う。

また、事務局と協同し、国に対する申請、報告等の文書作成を行う。

さらに、事業実施に当たっては、文化観光拠点施設や文化観光推進事業者、地域との調整、進捗管理、実績報告、事業評価、次年度事業案策定を行う。

所管する「熊本県伝統工芸館」を本計画の目的達成に不可欠な「連携施設」として位置づけ、計画の趣旨に沿った事業を推進する。

具体的には、施設における事業の実施や進捗管理、実績報告、事業評価を行い、次年度事業案を策定する。

また、必要に応じて、事務局と連携しながら、文化資源の活用を通じて地域計画の円滑な実現を図る。なお、連携施設は文化観光拠点施設とは異なり、中核的機能を担うものではないが、計画の目的達成に向けて重要な役割を果たす。

- (4) 熊本県教育庁教育総務局文化課【施行規則第1条第2項第1号】

本計画の趣旨に沿って、文化資源の保存と活用の両立を目指す取組に協力する。

特に「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との連携を視野に、熊本県立美術館・永青文庫展示室を活用した文化資源の魅力発信に関する調整や助言を行う。

- (5) 熊本県立美術館【施行規則第1条第2項第1号】

本計画の中核となる文化観光拠点施設（熊本県立美術館・永青文庫展示室）の運営主体として、事業実施、進捗管理、実績報告、事業評価を担い、次年度事業案を策定する。

さらに、改正博物館法に定められた公立博物館としての役割を踏まえ、地域活性化への寄与、施設の役割再定義、外部との接続を重視した取組を進める。

- (6) 熊本県立図書館（くまもと文学・歴史館、こども本の森 熊本）【施行規則第1条第2項第1号】

所管する施設を本計画の目的達成に不可欠な「連携施設」として位置づけ、計画の趣旨に沿った事業を推進する。

具体的には、施設における事業の実施や進捗管理、実績報告、事業評価を行い、次年度事業案を策定する。

また、必要に応じて、事務局と連携しながら、文化資源の活用を通じて地域計画の円滑な実現を図る。なお、連携施設は文化観光拠点施設とは異なり、中核的機能を担うものではないが、計画の目的達成に向けて重要な役割を果たす。

2-5. 文化観光拠点施設の設置者（協議会の構成員である県及び市を除く）

（７）出水神社【施行規則第１条第２項第２号】

本計画の中核となる文化資源である水前寺成趣園の所有者として、本計画全体への助言や提言を行う。

また、所有する文化観光拠点施設において、計画に基づく事業を実施し、その進捗管理、実績報告、事業評価を行ったうえで、次年度の事業案を策定する。

さらに、出水神社は民間の宗教法人であり、県や市、熊本県立美術館と同様の業務遂行は困難な場合があるが、現在進めている「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」を基に施設管理者としての責務を果たしつつ、協議会および事務局と連携し、実効性のある取組を進める。

2-6. 文化観光推進事業者

（８）（公財）永青文庫【施行規則第１条第２項第２号】

永青文庫（東京都文京区）との連携を活かし、永青文庫細川コレクションの価値や魅力を広く周知するため、広域的な文化資源の発信及びプロモーションを推進し、地域と首都圏を結ぶ文化観光の質的向上に寄与するものである。

なお、熊本県立美術館の「細川コレクション永青文庫展示室（別棟展示室）」は、施設設備保全を目的とした改修工事に伴い、令和７年（２０２５年）４月１日から令和８年（２０２６年）１２月頃まで閉室予定である。

この期間中も、熊本県立美術館（本館第２展示室での細川コレクション紹介を含む）における展示・情報発信及び、永青文庫（東京）との協働事業を通じて、文化資源の活用と情報発信を継続するものである。

（９）（一財）熊本国際観光コンベンション協会【施行規則第１条第２項第１号】（DMO 機能を担う主体）

熊本市域における観光振興を推進する中核的団体として、地域の観光マネジメントを担う DMO 相当の役割を担う。

民間団体の視点や多様なデータに基づき、地域の関係者を巻き込みながら、効果的な事業を実施する。

あわせて、事業の進捗管理、実績報告、事業評価を行い、次年度事業案を策定する。

特に、旅行者目線での文化的価値を高める観光コンテンツの磨き上げやプロモーションを通じて、文化観光の推進に寄与する。

（１０）その他任意団体（水前寺参道商店会、水前寺活性化プロジェクトチーム、水前寺成趣園まつり実行委員会）

【施行規則第１条第２項第２号】

水前寺参道商店会および水前寺活性化プロジェクトチームは、水前寺成趣園周辺の商店、飲食店、旅館、地域住民、地元事業者、若手有志など、多様な主体で構成される地域密着型の任意団体である。日頃から参道のにぎわいづくりや地域行事の運営、清掃・美化活動など、観光地としての基盤を支える役割を担っている。

これらの団体は、地域の関係者と連携しながら、現場の視点をいかした観光資源の磨き上げや、旅行者ニーズに基づくコンテンツ造成、情報発信・プロモーションを推進している。また、観光客の満足度向上につながる受入環境の改善や、地域の特性をいかした着地型観光の取組を支える活動にも関わり、文化観光の推進に寄与する重要な地域パートナーとしての役割を担う。

特に、水前寺成趣園まつり実行委員会は、水前寺成趣園、出水神社、古今伝授の間、能楽殿、参道、周辺文化施設等を活用し、肥後細川文化を「観て体験する」機会を創出する地域横断型の実施主体である。

同実行委員会は、県・市、観光関係団体、地域団体、商店街、文化団体、教育関係者等との連携のもと、水前寺成趣園まつりを通じて、茶道、能楽、流鏝馬、肥後六花、細川流盆石、肥後象嵌、子ども古今伝授等の体験・展示を実施している。

これらの取組は、来訪者の文化理解を深めるだけでなく、地域のにぎわい創出、市民・県民のシビックプライド醸成、学校教育・次世代育成、伝統文化の継承に資するものであり、本計画における文化観光推進の地域側の受け皿として重要な役割を担う。

3. 計画区域

本計画の区域は、熊本城エリア（熊本城および熊本県立美術館本館・永青文庫展示室の所在する一帯）と、水前寺成趣園を中心とする水前寺エリアを結ぶ文化回遊ゾーンとする。なお、江津湖湧水景観は水前寺成趣園の文化的背景を形成する重要な自然環境であるが、現行の回遊動線（徒歩・公共交通で10～15分単位）では接続できないため、区域には含めず、水前寺文化を支える自然環境として位置付ける。

（文化回遊ゾーン）



4. 基本的な方針

4-1. 現状分析

4-1-1. 主要な文化資源

細川家は、室町幕府の管領家として武門の名門とされ、戦国期には細川藤孝（幽斎）を初代とする近世細川家が成立した家である。寛永 9 年（1632 年）、3 代忠利のときに肥後熊本 54 万石を与えられ、以後、幕末まで熊本藩主として地域の政治と文化を担った。

ここでいう肥後細川文化とは、藩主細川家が重視した「武による統治」と「文による精神涵養」を両輪とし、政治・学芸・庭園文化・自然観が有機的に結びついて形成された総合的な文化体系である。これらの思想と価値観は、城郭、庭園、芸能、文芸、美術工芸など多様な形で地域に根づき、熊本独自の文化的風景を形づくってきた。

本計画区域には、この肥後細川文化の多面性を体現する文化資源が面的に広く分布している。

本地域の文化資源は、肥後細川文化の多面性を構成する「武の文化」「文の文化」「水の文化」の三つの軸に整理される。

武の文化：熊本城を中心とした城郭・城下町・武家儀礼・武家美術工芸

文の文化：永青文庫展示室、美術資料、和歌・茶の湯・能などの武家教養文化

水の文化：水前寺成趣園に象徴される阿蘇伏流水を基盤とした庭園文化・自然観

これら三つの文化軸は互いに補完し合い、肥後細川文化の独自性と文化的価値を多面的に理解する基盤となっている。熊本城、水前寺成趣園、熊本県立美術館・永青文庫展示室は、それぞれが「政と武」「心と美意識」「知と学び」という異なる側面を象徴しつつ、相互に補完し合う三つの拠点である。

城郭・庭園・美術資料を中心とした多様な有形無形の文化遺産は、いずれも肥後細川文化の価値を今日まで連綿と伝えている。

本区域は、こうした文化資源が地理的にも歴史的にも連続する稀有な文化空間を形成しており、文化観光において高いポテンシャルを有する。

以下に、本区域に所在する主要な文化資源の分類と具体例を示す。

1 肥後細川家と三者の歴史的背景と位置づけ

熊本城（特別史跡）

藩政中枢の「政と武」の象徴で、城下水利と一体の都市経営を物語る。区域の歴史骨格を示す基幹資源。

水前寺成趣園（名勝・史跡）

阿蘇の伏流水に育まれた池泉回遊式大名庭園。茶・和歌等の文化事を包摂する「心と美意識」の象徴。

熊本県立美術館・永青文庫展示室

細川家伝来のコレクションを公開する「知の拠点」。※展示室は改修のため 2026 年 12 月頃まで休室（予定）。



熊本城（特別史跡）



水前寺成趣園（名勝・史跡）



熊本県立美術館・永青文庫展示室

2 文化資源分類表

【国指定文化財】

指定区分	分類	名称	写真
熊本城エリア・周辺			
重要文化財	建造物	熊本城	
重要文化財	建造物	細川家舟屋形「波奈之丸」 ※所在地：熊本市中央区 古京町 熊本博物館内	
重要文化財	建造物	吉田松花堂 ※所在地：中央区黒髪5丁目（泰勝寺跡付近、細川家墓所隣接エリア）	
記念物	特別史跡	熊本城跡	
記念物	史跡	熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡・泰勝寺跡） ※熊本城西側（黒髪・横手地区）に位置	

水前寺エリア			
記念物	名勝及び史跡	水前寺成趣園	
記念物	天然記念物	スイゼンジノリ発生地 ※水前寺江津湖湧水群の一部で、エリア直近に所在	

本計画は、肥後細川文化を「武・文・水」の三つの軸で捉え、熊本城（武）・熊本県立美術館〔永青文庫展示室を含む〕（文）・水前寺成趣園（水）を中心に回遊を創出する。

このうち、文化観光拠点施設として中核に位置付け、機能強化を図る施設は「水前寺成趣園」および「熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）」の2施設とする。

なお、熊本城は既に主要な観光拠点として機能しているため、本計画では「文化資源保存活用施設」として別に整理する。

(1) 文化観光拠点施設

■水前寺成趣園（国指定記念物〔名勝及び史跡〕）

水前寺成趣園は、阿蘇の伏流水が生み出す清らかな湧水をたたえ、歩くほどに景色が移ろう池泉回遊式の名庭園である。起点となったのは寛永9年（1632年）、肥後細川家初代藩主・細川忠利公がこの地に御茶屋を置いたこと。三代綱利公の時代に作庭が進み、中国の詩人・陶淵明『歸去来辞』にちなみ「成趣園」と名付けられた。

見どころは、湧水がつくる水面のきらめき、ゆるやかな築山と園路の“間”、そして四季の彩り。庭園を歩く体験そのものが、細川家が大切にした「心を整える時間」へとつながっている。

さらに園内には、歌道の伝統を象徴する「古今伝授の間」と、歴代藩主を祀る出水神社が隣接し、庭園・建物・信仰が一体となった文化空間を形づくる。入園前後の参道も含め、“静かな庭園体験に入っていくプロローグ／余韻を持ち帰るエピローグ”として楽しめることが、水前寺の大きな魅力である。



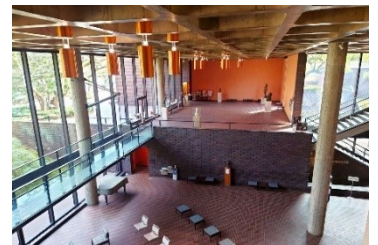
・古今伝授の間（県指定重要文化財〔建造物〕）

茅葺書院「古今伝授の間」は、当代唯一の古今和歌集の奥儀の伝承者であった細川幽斎が後陽成天皇の弟君八条宮智仁親王に伝授を行った建物であり、京都御苑内に建てられていたものが桂宮家（旧八条宮家）から細川家に下賜されたもの。座敷に腰をおろし、庭園を正面に眺めると、景色が“絵”として立ち上がる。ここは単なる建造物ではなく、肥後細川文化の「文」の精神—和歌・茶・礼の美意識—を体感できる場所である。



■熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）

熊本県立美術館は熊本城二の丸に位置する総合美術館で、古今東西の多様な作品を収蔵・展示する。併設の「細川コレクション 永青文庫展示室」では、肥後細川家に伝来する美術工芸品・歴史資料を通じて、城（武）と庭（静）をつなぐ“文の世界”を立体的に理解できる。展示室が休室期間中も、本館展示室での展示等を通じて、来訪者が物語を途切れさせない工夫を行う。



(2) 文化観光拠点施設と連携する文化資源保存活用施設

本項の施設は、(1) の文化観光拠点施設（中核2施設）と連携し、肥後細川文化の理解促進や回遊の広がりを見出す「文化資源保存活用施設」として位置付ける（中核拠点ではない）。

■熊本城（国指定重要文化財〔建造物〕）

日本三名城の一つとされる熊本城は、加藤清正が慶長6年（1601年）から7年をかけて築いた名城である。城域は約98ヘクタール、周囲約5.3キロメートルに及び、かつては大小天守のほか櫓49、櫓門18、城門29を備えた実戦的な要塞であった。

加藤家・細川家の居城として続いたのち、明治10年の西南戦争では50日余の籠城に耐え難攻不落の堅城ぶりを示したが、総攻撃直前に出火し主要建物の多くを焼失した。現在の天守は昭和35年に市民の浄財により再建されたものである。

熊本城の石垣は、下部が緩やかで上部に向かうほど反り返る独特の形状を持ち、「武者返し」と称される堅固な構造である。近くで見上げるほど迫力が増す見どころである。城内には熊本県立美術館や二の丸広場などの施設があり、春には桜の名所として多くの来訪者を迎える。



■熊本博物館（重要文化財「細川家舟屋形」展示）

熊本博物館には、重要文化財「細川家舟屋形」が所在し、細川家に関わる貴重な文化資源を保存・展示している。御座船「波奈之丸」は、藩主細川家の参勤交代のために造られた船であり、藩主の御座所部分である「細川家舟屋形」はその中核をなす重要な遺構である。平成28年～平成30年（2016年～2018年）にかけて、熊本城天守閣内に所在していた舟屋形部分を熊本博物館へ移築し、現在は適切な保存環境のもと公開している。



所蔵：公益財団法人 永青文庫
管理団体：熊本市

本施設は、細川家の政治・生活・文化を具体的に伝える資料として、熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）及び水前寺成趣園と連携し、「武・文・水」の物語を補完する役割を担う。

今後は、導入解説の充実、QRコード等による多言語情報提供、周辺施設との回遊導線の明示等を通じて、熊本城エリアから水前寺エリアへと広がる文化回遊の理解促進と来訪者の滞在価値向上に資する文化資源保存活用施設として位置付ける。特に、熊本城を起点とした来訪者を本施設へ誘導し、さらに熊本県立美術館及び水前寺成趣園へとつなげる回遊導線の中継拠点としての機能強化を図る。

■くまもと文学・歴史館

熊本県立図書館に併設のくまもと文学・歴史館は、歴代藩主が川下りをしながら鷹狩を楽しんだ加勢川・江津湖のほりとという自然豊かな環境に位置する。また、館の敷地は、第十代藩主細川斉護の正室、顕光院益姫が晩年を過ごした砂取細川邸の跡地でもある。邸に付属する庭園の眺望はもとより、周辺では豊かな湧水と野鳥の群れも観察できるなど、周辺には水前寺成趣園や熊本市動植物園などがあり、文化と自然をあわせて体感できるエリアの中核施設である。



本館の特徴は、この水辺の景観を「頗る気に入った」と称えた夏目漱石など、熊本ゆかりの文学者資料に加え、肥後細川家に関する歴史資料や文化を紹介する展示を備えている点にある。また、熊本藩の検地帳や絵図、藩政に関わる古文書など、細川家の統治と文化政策を理解するための貴重な史料も公開している。

さらに、隣接する「こども本の森 熊本」(安藤忠雄氏寄贈)では、県産ヒノキを使った建築空間で絵本や児童書を楽しめ、文化と自然を融合した学びの場を提供している。

■熊本洋学校教師ジェーンズ邸(県指定重要文化財〔建造物〕)

県指定重要文化財「洋学校教師館」は、熊本洋学校の教師として招聘した外国人教師リロイ・ランシング・ジェーンズの住居として、明治4年(1871年)に古城(現在の熊本県立第一高等学校内)に建てられた熊本最古の洋風建築である。

明治9年(1876年)の熊本洋学校廃校後は、熊本県物産館、日赤熊本支部事務局・血液センターとして利用され、その後「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」として本市で管理・公開を行ってきた。

元は古城(現在の第一高校)に建てられたが、役割を変えつつ移転を繰り返し、水前寺成趣園の東側隣接地に移設された。しかし、熊本地震で倒壊し、令和5年(2023年)より、現在の水前寺江津湖公園の一角に移設復元された。館内にはジェーンズの愛用品や博愛社ゆかりの品々を展示している。

庭園散策の延長で訪れることで、和の景観から一転して明治の空気に触れる体験となる。



■夏目漱石大江旧居

漱石は4年3か月の熊本生活の間、引っ越しを繰り返し6か所の家に住んだ。この旧居はもともと大江村(現在の新屋敷1丁目)にあったものを移築復元した家である。家主で漱石の五校の同僚であった落合東郭(おちあいとうかく:漢詩人、大正天皇の侍従を務める)が東京勤務の間、漱石はこの家を借りていた。漱石はこの家から小説「草枕」の題材になった玉名市小天への旅行に出発した。作品の背景を思い浮かべながら訪れると、熊本で過ごした漱石の日常がより身近に感じられる。



■後藤是山記念館

後藤是山(ごとうぜざん)は明治19年(1886年)に大分県久住町(現在の竹田市)に生まれた。九州日日新聞社から国民新聞社(東京)に派遣された是山は、徳富蘇峰(とくとみそほう)から直接指導を受けるとともに、徳富蘆花(とくとみろか)や当時の著名な文化人達の感化を受けた。

熊本に帰り編集を任せられるようになった是山は文芸欄の拡充に尽力し、東京で知り合った著名な俳人・歌人・画家達を紙面に登場させ、人々の目を見張る紙面をつくった。館内には与謝野鉄幹・晶子(よさのてっかん・あきこ)夫妻の色紙や短冊、堅山南風(かたやまなんふう)の絵手紙など多数展示している。文学や美術が好きな来訪者にとって、熊本の文芸が育った空気をたどる立ち寄り先となる。



■熊本県伝統工芸館

熊本県伝統工芸館は、伝統的工芸品の展示や販売、体験イベントなどを通して、伝統的工芸品を「観て」「触れて」「知って」もらう施設である。肥後象眼や高田焼など、肥後細川文化の流れを汲んだ伝統的工芸品を展示販売するなど、文化伝承の役割も担っている。



(3) 肥後細川家が育んだ無形文化と水前寺成趣園における文化事

肥後細川家は、「武をもって政を治め、文をもって心を養う」という理念のもと、茶の湯、和歌、華道、礼法、流鏑馬など多様な無形文化を育み、藩政期の約 240 年間にわたり熊本に独自の精神文化を形成した。これらの文化事は、武家としての規律と美意識を調和させ、藩主から家臣、町人層にまで根づいていった肥後細川文化の中核をなすものである。

水前寺成趣園は、こうした無形文化が実際に行われ、磨かれた代表的な舞台である。庭園は藩主の心を養う場であると同時に、来客をもてなす社交空間として整備され、茶の湯、和歌、華道、流鏑馬などの文化事が四季の移ろいとともにも営まれた。特に茶の湯は細川家の美意識を象徴するもので、園内の茶屋では藩主や文化人が静かに湯を点て、自然と向き合いながら心を整えた。

また、園内で催された流鏑馬の儀式は「武」と「雅」の調和を体現し、武家文化の精神性を象徴するものでもあった。華道や肥後六花に代表される園芸文化も継承され、成趣園は「四季の美と文化」が交差する場として今日までその価値を伝えている。

<肥後古流（茶道）>

千利休の茶の湯は、娘婿である圓乗坊宗圓に一子相伝され、さらに宗圓の娘婿である古市宗庵へと余すところなく伝授された。この茶事は正しく継承され「肥後古流」として受け継がれている。

その始まりは、寛永 2 年（1625 年）、細川忠利が古市宗庵を茶道役として召し抱えたことにある。以後、歴代藩主の庇護のもと継承され、約 400 年の時を経た現在においても、千利休の茶風に忠実な形で伝えられている。

肥後古流は、高度な真正性と歴史的継続性から文化的価値の高い伝承体系として評価されており、今後の文化観光における体験価値の向上や高付加価値化に資する独自性を備えた文化資源である。



<肥後象がん（ぞうがん）>

肥後象がんは、鉄地に金銀を嵌め込み文様を表す高度な金工であり、細川家の武具や刀装具の装飾として発展した。厳格な武家文化の中で洗練された美意識を反映し、「武の美」を備える工芸として知られる。熊本藩お抱え工匠によって技術体系が確立され、その作風は独自の品格を備える。現代にまで途絶えず受け継がれており、肥後細川家の美意識を象徴する無形文化資源として高い文化的価値を有する。



<和歌（細川家歌道）>

細川家は、初代細川藤孝（幽斎）以来、歌道の家として知られ、古今伝授の正統を継ぐ家柄として文化史的に大きな意味を持つ。幽斎から忠興、さらに熊本藩主へと歌の教養は一貫して伝承され、藩政期の熊本でも和歌会（歌会）が催され、藩主や家臣、文化人が精神性を磨く場となった。和歌は細川家における「文の精神」を体現し、庭園観や自然観にも深い影響を与え、地域文化の形成に重要な役割を果たした。



<水に詠まれた和歌と細川家の想い>

細川家の文化は、和歌にその心を映している。特に「水」は細川家にとって重要な象徴であり、細川藤孝（幽斎）以来、その清らかさや静謐さが心のありようや自然観と結びついて詠まれてきた。細川家は水を題材にした和歌を多く残し、その感性は熊本に移ってから受け継がれた。

水前寺成趣園の名称もまた、藩主が重んじた精神性を反映する。園名の「成趣」は中国の詩人・陶淵明の『帰去来辞』に由来し、「人生の完成」「心の成熟」を意味する。藩主が庭園に込めたのは、権力の誇示ではなく、自然と向き合い、心を整える場としての価値であった。湧水の澄んだ流れは、藩主自身の「清廉な心」を象徴し、庭園を歩く者に静かで深い精神性を伝え続けている。こうした

「水」と結びついた和歌の伝統は、肥後細川文化の精神基盤を理解するうえで不可欠であり、熊本の文芸文化を形づくる重要な無形文化資源として今日まで継承されている。

<礼法（細川家礼法）>

細川家には、武家としての作法・姿勢・言葉遣い・立ち居振る舞いを体系化した礼法が伝わっており、藩政期には藩士の教育において重視された。礼法は単なる形式ではなく、「武と文の調和」「人としての心の涵養」という細川家の思想を具現化するものであり、藩の統治理念とも深く結びついていた。礼法の作法は後世にも伝えられ、学校教育や地域の行事の在り方にも影響を残している。細川家の精神性を象徴する重要な無形文化資源である。

<流鏑馬（武家騎射）>

熊本藩では、武芸としての騎射の伝統が細川家によって継承され、特に水前寺成趣園や泰勝寺周辺では儀礼的な流鏑馬が行われた記録が残る。流鏑馬は、武家の精神修養と儀礼文化が結びついた行事であり、「武」と「雅」の調和を象徴する文化事として藩主や家臣の間で重んじられた。騎射の作法・儀礼は細川家の武家文化の核心に関わるものであり、現代の文化イベントなどにも形を変えて継承されている。熊本における武家文化の歴史を読み解く上で不可欠な無形文化資源である。



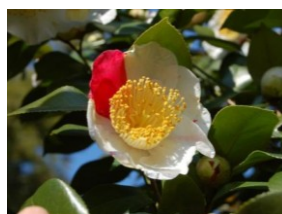
<華道（肥後華道）>

肥後細川家のもとで発展した華道は、侘び・寂びを重んじる茶の湯文化と密接に結びつき、武家らしい簡素な美と凛とした品格を特色とする。細川家の庇護により華道は藩内に広く広まり、庭園美や四季の花を愛でる文化とも連動し、地域の生活文化として定着した。また、肥後六花（椿・芍薬・花菖蒲・朝顔・菊・山茶花）を中心とする園芸文化にも影響を与え、熊本の花文化の礎を築いた。今日に至るまで伝統が継承される無形文化資源である。

<肥後六花の種類>

■肥後椿（ひごつばき）

花卉は5～6枚の一重平開。中心部に黄金の「薬」が広がる。色は紅・白・淡紅・絞りなど。開花時期：2月～4月。



肥後椿



肥後芍薬

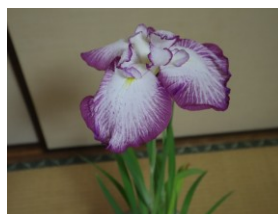
■肥後芍薬（ひごしゃくやく）

大輪で花卉は8～10枚。蓮華咲きになる品種もあり。

色は白・紅紫・赤など。花芯は100～200本の雄蕊が盛り上がる。開花時期：4月下旬～5月上旬。

■肥後花菖蒲（ひごはなしょうぶ）

花被が大きく幅広く、花被と花被の間に隙間が少なく、花芯が大きく目立つ。色は白・紫・藍・紅・瑠璃・紺など。開花時期：6月上旬～中旬。



肥後花菖蒲



肥後朝顔

■肥後朝顔（ひごあさがお）

大輪で花筒部は純白、花色は紅・青・紫など。

州浜系の斑入り千鳥葉を持ち、蔓一本で美しく咲かせる。開花時期：7月、9月。

（令和7年 栽培家のご自宅にて撮影）

■肥後菊（ひごぎく）

一重平開の花で平弁と管弁の二形。

花芯は黄金色に盛り上がり、大・中・小輪の系統がある。色は濁りのない濃色または純白。開花時期：11月中旬～12月中旬。



肥後菊



肥後山茶花

■肥後山茶花（ひごさざんか）

一重大輪で「梅芯」が美しい。開花時期：10月下旬～12月中旬。

4-1-2. 観光客の動向

1 本計画地域への観光入込客数（「熊本市観光統計」による）

令和6年（2024年）の熊本市における観光動向は、円安の進行に伴う訪日外国人旅行者の急増を背景に、TSMCの熊本進出による台湾をはじめとするアジア諸国との観光・ビジネス交流の活発化が顕著である。これに加え、阿蘇くまもと空港における国際線定期便の新規就航や増便が相次ぎ、外国人観光客数は過去最高を記録した。

観光消費額は前年比23.4%増の1,153億円、延べ宿泊者数は前年比13.9%増の402万人、外国人宿泊者数は前年比105.2%増の89万人、入込数は前年比12.1%増の630万人である。特に外国人入込数は2019年の約71万人から2024年には約139万人へと倍増し、外国人延べ宿泊者数も約89万人に達している。

■観光客入込等の状況

	R1/2019 (A)	R3/2021	R4/2022	R5/2023 (B)	R6/2024 (C)	対R5/2023 C-B	増減 (%)	対R1/2019 C-A	増減 (%)
観光消費額	826億円	381億円	614億円	934億円	1,153億円	219億円	+23.4%	327億円	+39.6%
宿泊者数	2,819,249人	1,837,479人	2,610,598人	3,533,497人	4,023,456人	489,959人	+13.9%	1,204,207人	+42.7%
うち外国人 宿泊者数	342,649人	5,658人	47,222人	433,602人	889,616人	456,014人	+105.2%	546,967人	+159.6%
入込数	6,014,000人	2,311,000人	4,053,259人	5,625,542人	6,304,582人	679,040人	+12.1%	290,582人	+4.8%

外国人宿泊者の属性は東アジア4か国・地域（台湾・中国・香港・韓国）が中心であり、令和6年（2024年）は台湾が約29万6千人で全体の約3割を占める。中国は約17万7千人、香港は約11万人、韓国は約8万人である。その他、欧米豪からの来訪も増加傾向にある。国内観光客は中高年層が中心であり、若年層の認知度は依然として低い。

■外国人の国・地域別宿泊者数（上段：国籍、下段：宿泊者数）

順位 年	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	その他	合計
平成27年(2015年)	台湾 21,807	中国 21,634	韓国 20,566	香港 15,101	タイ 6,538	米国 4,171	シンガポール 3,320	オーストラリア 1,463	フランス 1,189	ドイツ 1,147	11,097	108,033
平成28年(2016年)	台湾 26,418	中国 21,152	韓国 16,654	香港 12,542	米国 5,498	タイ 5,400	シンガポール 1,902	オーストラリア 1,358	ドイツ 986	フランス 837	11,657	104,404
平成29年(2017年)	台湾 46,170	中国 33,134	韓国 27,832	香港 20,607	米国 7,657	タイ 4,816	シンガポール 4,304	オーストラリア 2,103	カナダ 1,672	マレーシア 1,479	32,579	182,353
平成30年(2018年)	台湾 59,079	中国 46,060	韓国 44,640	香港 29,888	米国 7,604	タイ 5,715	シンガポール 5,030	オーストラリア 2,748	マレーシア 2,628	ドイツ 2,116	29,830	235,338
令和元年(2019年)	台湾 67,356	中国 63,895	韓国 50,622	香港 29,592	米国 12,739	タイ 11,166	シンガポール 10,459	オーストラリア 9,460	フランス 8,191	イギリス 7,501	71,668	342,649
令和2年(2020年)	台湾 10,623	中国 10,369	韓国 9,122	香港 3,964	米国 2,977	タイ 1,158	シンガポール 1,000	オーストラリア 894	マレーシア 578	ドイツ 518	7,774	48,977
令和3年(2021年)	ドイツ 1,141	米国 821	インドネシア 718	中国 655	韓国 230	ロシア 186	タイ 133	イギリス 79	台湾 66	フィリピン 66	1,563	5,658
令和4年(2022年)	台湾 6,109	米国 5,771	韓国 5,460	香港 4,312	中国 3,675	タイ 2,592	シンガポール 1,922	インドネシア 577	カナダ 418	マレーシア 409	15,977	47,222
令和5年(2023年)	台湾 112,219	中国 59,279	韓国 57,298	香港 46,141	米国 15,232	タイ 14,677	シンガポール 11,604	オーストラリア 5,086	カナダ 3,797	ドイツ 3,634	104,635	433,602
令和6年(2024年)	台湾 296,844	中国 177,557	韓国 110,797	香港 80,266	米国 25,676	タイ 22,883	シンガポール 21,559	オーストラリア 8,034	マレーシア 7,243	フランス 6,590	132,167	889,616

主要観光施設の入園者数においては、熊本城が令和元年（2019年）比で153.6%増加し、コロナ禍前の実績を上回った。また、水前寺成趣園は夜間イベント等の開催により前年比27.3%増加し、年間約44万人となった。

■観光施設入園者数の動向

	R1/2019 (A)	R3/2021	R4/2022	R5/2023 (B)	R6/2024 (C)	対R5/2023 C-B	増減 (%)	対R1/2019 C-A	増減 (%)
熊本城	119,997人	360,855人	844,916人	1,303,929人	1,418,105人	114,176人	+8.8%	1,298,108人	+1,081.8%
水前寺成趣園	425,497人	135,517人	219,078人	345,633人	440,093人	94,460人	+27.3%	14,596人	+3.4%
動植物園	785,006人	411,432人	684,931人	615,861人	599,952人	△15,909人	△2.6%	△185,054人	△23.6%

2 熊本城エリアと水前寺エリアの動向

熊本城（市内比較）

－ 城郭文化と庭園文化の二核を有する都市としての比較検討 －

熊本市は、近世城郭を中核とする「熊本城エリア」と、湧水を基調とした大名庭園を中心とする「水前寺エリア」という、性格の異なる二つの主要文化観光拠点を有している。両エリアは、いずれも肥後細川家の治政を背景とした歴史文化を基層に持ちながら、都市構造・景観・文化体験の性質に明確な違いがみられる。この二拠点を比較することにより、本市の文化観光における強みと課題が明確になり、相互補完的な観光戦略の検討が可能となるため、本節では両エリアの文化資源・基礎条件・観光特性を整理し、比較考察を行う。

区分	熊本城エリア	水前寺エリア
文化資源	・ 特別史跡 熊本城跡 ・ 熊本県立美術館・永青文庫展示室 ・ 熊本城ミュージアムわくわく座 ・ 新町・古町の城下町文化 ・ 熊本県伝統工芸館	・ 名勝 水前寺成趣園／出水神社／古今伝授の間 ・ くまもと文学・歴史館 ・ 夏目漱石第三旧居 ・ ジェーンズ邸
基礎	・ 中心市街地に隣接し交通至便 ・ 公共交通の結節点 ・ ユニークベニュー活用が可能	・ 江津湖湧水群の湧水景観 ・ 教育文化施設が隣接 ・ 落ち着いた滞在環境
観光	・ 全国的知名度の城郭観光地 ・ 復旧公開を観光資源化 ・ 入園者 約141.9万人（令和6年（2024年）） ※熊本城特別公開エリアの入園者数	・ 文化景観を楽しむ庭園観光 ・ 文学・近代史連動 ・ 入園者 約44万人（令和6年（2024年）） ※水前寺成趣園の入園者数
共通性	両エリアはいずれも肥後細川文化を基層に持ち、城郭・庭園・美術・文芸・近代史といった文化資源が近接して配置されている。市全体としては、訪日需要の回復とともに台湾を中心としたアジアからの来訪が顕著であり、体験型・回遊型の文化観光に適した市場環境にある。また、熊本城約141.9万人、水前寺成趣園約44万人と、市内の主要拠点として双方が一定の集客力を有している。	
特徴	全国的な知名度を有し、復旧公開を通じて歴史・防災・文化財保全を学べる独自性の高い文化観光地として機能している。周辺には熊本県立美術館・永青文庫展示室など、細川家ゆかりの貴重な文化資源が集積し、城下町文化と連携した回遊が可能である。一方、体験型コンテンツの深化や城下町エリアとの一体的な案内・動線整備は今後の課題である。	名勝水前寺成趣園を核に、文学・近代史・湧水景観など多様な文化資源が高密度に集積する。阿蘇外輪山に涵養された伏流水が湧出する水前寺・江津湖湧水群は、熊本を象徴する文化景観であり、茶・能・盆石など細川文化の精神性を体験できる場としての価値が高い。一方、資源の点在性や、多言語案内・共通パス等による“面の文化体験”を実現する仕組みは未成熟であり、熊本城との広域回遊の構築が求められる。

強みの強化・弱みの克服（方向性）

熊本城エリアについては、復旧公開により高い注目を集める文化資源の密度をいかし、熊本県立美術館・永青文庫展示室・城下町エリアとの連携を強化し、歴史・美術・防災を横断する一体的な文化回遊ルートを形成する。体験プログラムやユニークベニュー活用、ナイトタイムコンテンツを計画的に充実させ、滞在時間の延伸と周遊行動の多様化を図る。

水前寺エリアについては、阿蘇外輪山に涵養された地下水が生み出す湧水景観を基軸に、庭園文化・文学・近代史・精神文化を統合した地域ストーリーを示し、文化体験の体系化を進める多言語案内や共通パスの導入に加え、水前寺成趣園を中心とした湧水景観と参道・周辺施設を含む面的文化エリアの回遊導線整備により、面的な文化観光の受入環境を強化する。

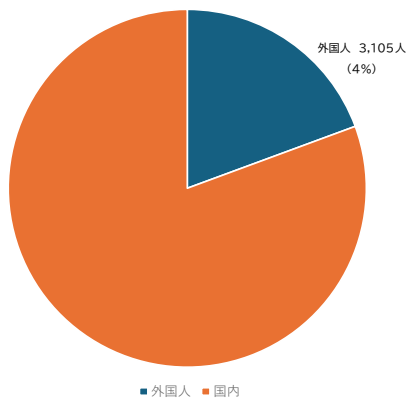
両エリアをつなぐ広域回遊については、「肥後細川文化」と「水」を都市全体の文化軸として提示し、熊本城エリアと水前寺エリアを連続的に巡る文化回遊ルートを形成する。訪日客の主要市場構成や行動特性を踏まえ、多言語解説、キャッシュレス対応、デジタル回遊ナビ等を整備し、文化体験と利便性を両立させる。これらの取組により、都市の文化魅力を最大化し、持続的な文化観光の発展を図る。

3 文化観光拠点施設への来訪者数

文化観光拠点施設への来訪者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2～3年度（2020～2021年度）に大きく落ち込んだが、令和4年度（2022年度）以降は復調傾向にある。特に水前寺成趣園は夜間イベントの開催等により来訪者が増加しており、令和6年度（2024年度）はコロナ禍前の水準を上回る回復を示している。また、熊本県立美術館本館においても、企画展示の規模や内容によって大きな変動はあるものの、令和5年度（2023年度）には大規模展により来館者が顕著に増加した。今後、企画展の工夫や地域イベントとの連携強化により、持続的な来訪者増加が期待される。

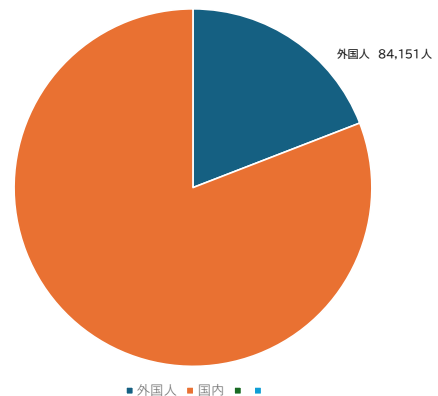
■熊本県立美術館・永青文庫展示室来館者
（熊本県立美術館 本館）の内訳（国内・外国人）

令和6年（2024年）来館者内訳（国内・外国人）
総数 77,622人



■水前寺成趣園来園者の内訳（国内・外国人）

令和6年（2024年）来園者内訳（国内・外国人）
総数 440,093人



4 熊本市観光満足度調査（令和6年（2024年）実施「（一財）熊本国際観光コンベンション協会」による）

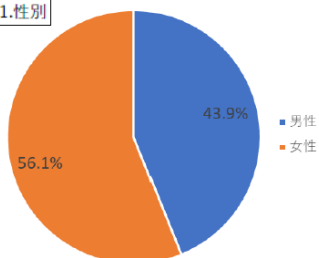
令和6年熊本市観光満足度調査

調査期間：令和6年1月1日～令和6年12月31日

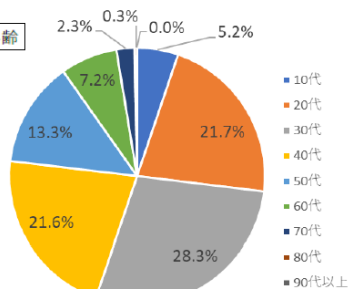
アンケート設置カ所：41カ所

回答数：2,174件

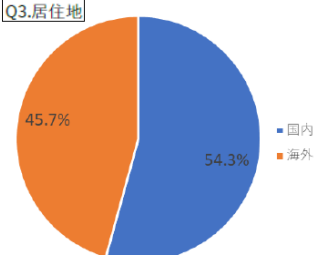
Q1.性別



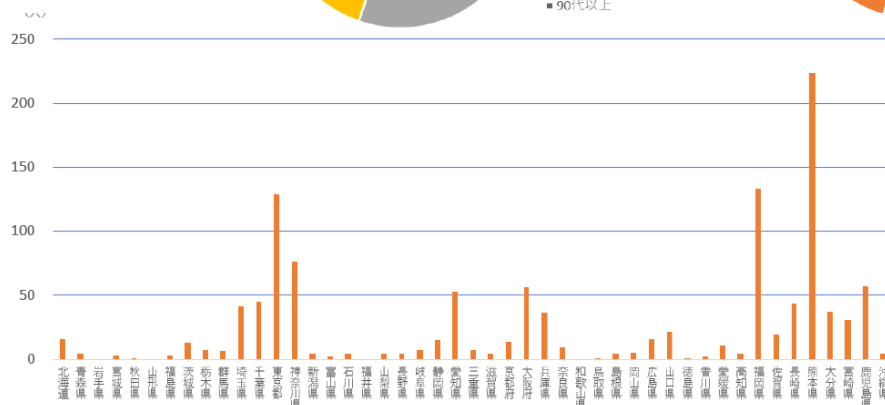
Q2.年齢



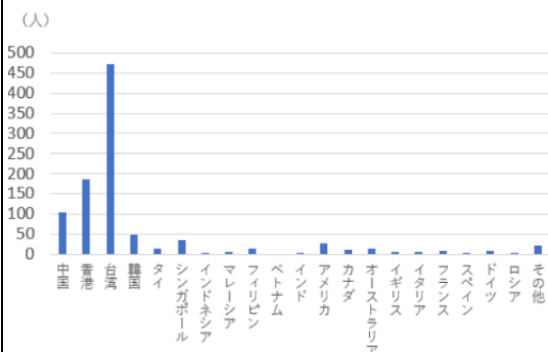
Q3.居住地



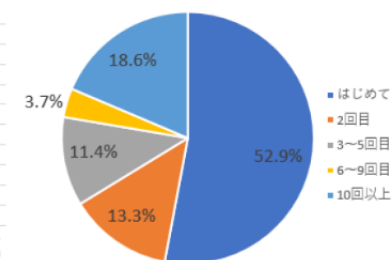
Q4.居住地（国内・都道府県）



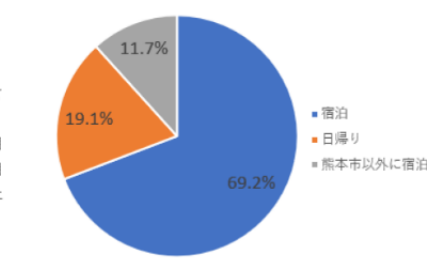
Q5.居住地（海外）



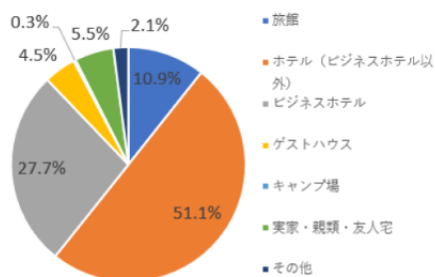
Q6.熊本市への訪問回数を教えてください。



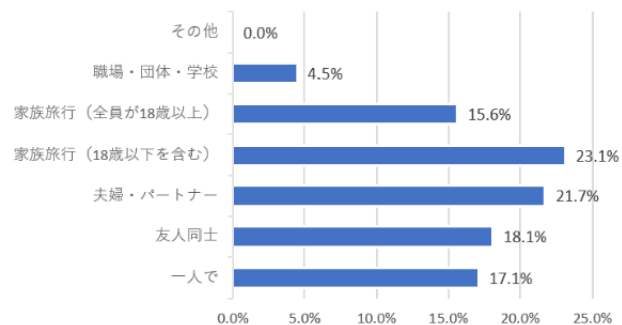
Q7.今回の旅行では熊本市に宿泊しましたか？



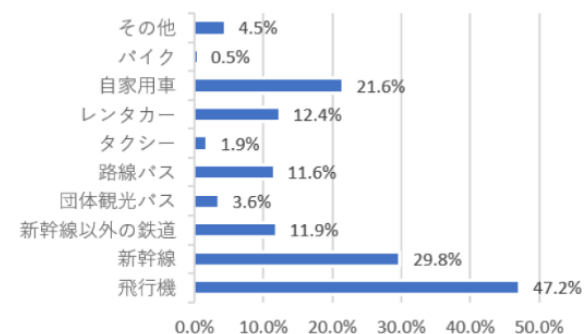
Q8.宿泊施設の種類の種類を教えてください。



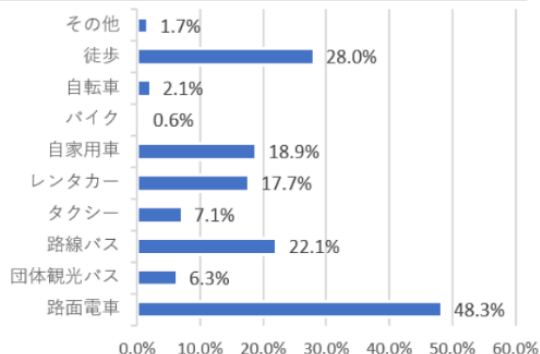
Q9. 今回の熊本市への旅行は誰と訪れましたか？



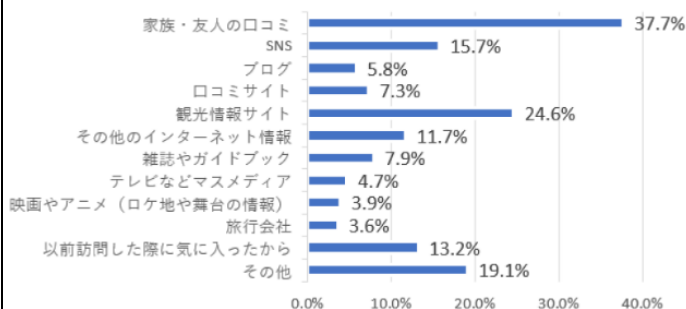
Q10. 今回の旅行で出発地から熊本市に来るまでに利用した交通手段を教えてください。（複数回答可）



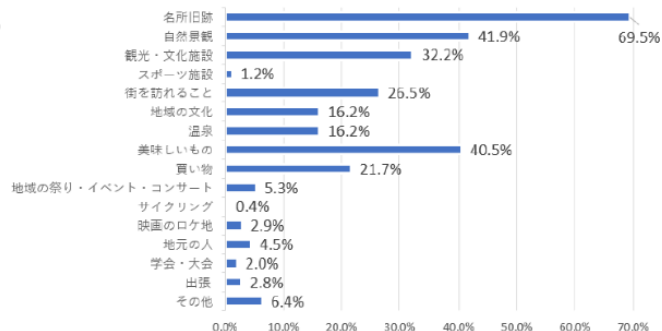
Q11. 今回の旅行で熊本市内の周遊に利用した交通手段を教えてください。（複数回答可）



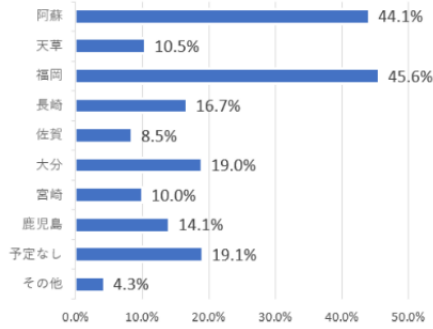
Q12. 今回の熊本市への旅行のきっかけとなった情報源を教えてください。（複数回答可）



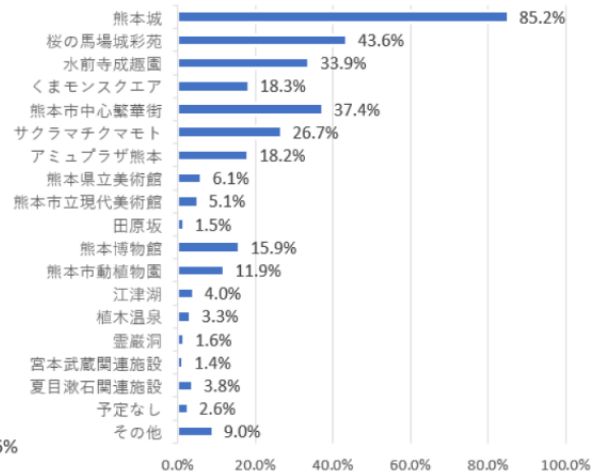
Q13. 今回の熊本市への旅行について主な目的を以下から選択してください（複数回答可）



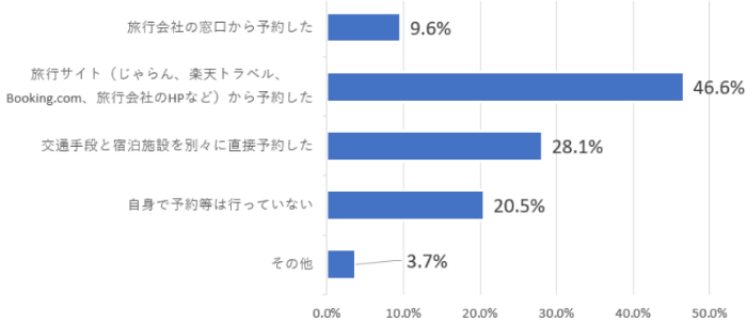
Q14. 今回の旅行で熊本市以外の観光地を訪れた場合、その場所を教えてください。(複数回答可)



Q16. 今回熊本市で訪れた観光地等(予定を含む)を教えてください。(複数回答可)

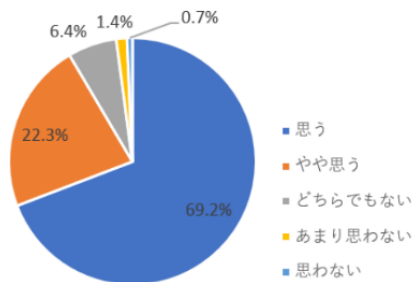


Q15. 今回の旅行の移動手段・宿泊先はどのような方法で予約されましたか(複数回答可)

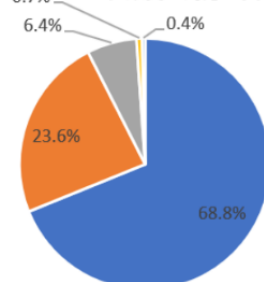


Q17. 宿泊施設については、どのように感じられましたか?

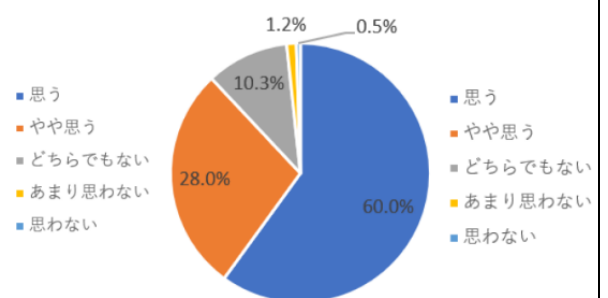
衛生的で清潔感があった



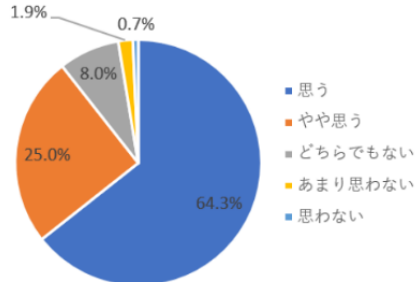
従業員の対応が良かった



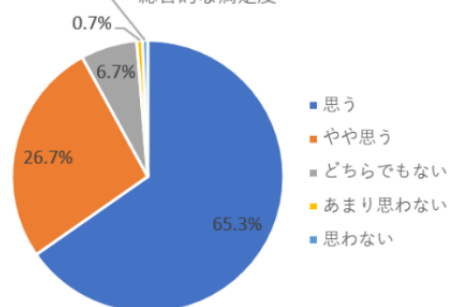
コストパフォーマンスが良かった



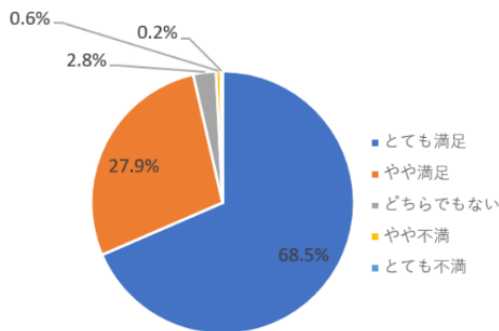
もう一度利用したいと思った



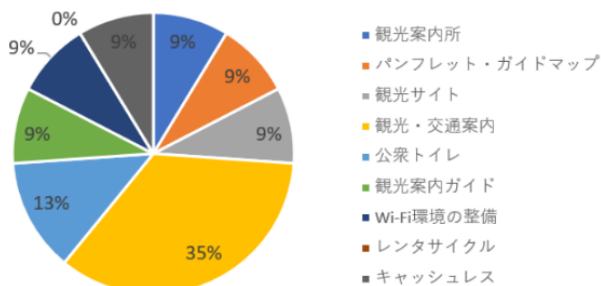
総合的な満足度



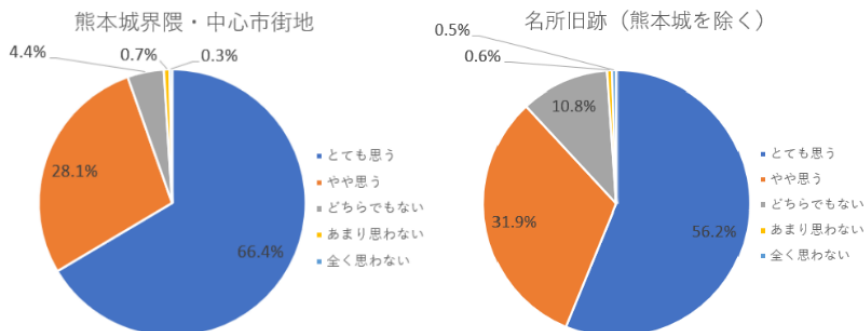
Q18. 今回の熊本市への旅行に対する総合的な満足度を教えてください。



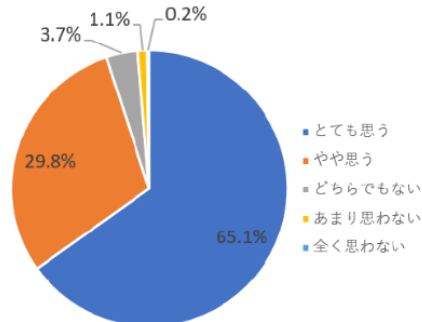
Q19. Q18で「やや不満」「とても不安」を選択の方に、「不満と感じた」ところを教えてください(複数回答可)



Q20. 熊本市への観光を家族や友人におすすめしたいと思いますか? (上位2つを紹介)



Q21. また熊本市を訪れたいと思いますか?



5 本計画におけるターゲット

(1) 国内

ア 文化に関心の高い国内旅行者 (中高年層)

- (ア) 熊本市の観光客の中心層であり、水前寺成趣園・熊本城・熊本県立美術館など文化施設に対する潜在的需要が高い。
- (イ) 熊本城来訪後に必ずしも水前寺エリアまで足を延ばしておらず、文化拠点間の回遊を促すことで来訪・滞在の広がりが見込まれる層である。

イ 都市圏 (福岡・関西・関東) の週末文化旅行層

- (ア) 美術館企画展や庭園鑑賞など、テーマを軸とした短期滞在型の旅行スタイルに親和性が高い。
- (イ) 本計画で進める展示の質向上や導線改善により、訪問動機を高めやすい層である。

(2) インバウンド

ア 東アジアを中心とした訪日外国人旅行者 (台湾・香港・中国・韓国)

- (ア) 熊本市の外国人宿泊者の主要市場であり、令和6年度(2024年度)には外国人入込数が約139万人と2019年比で約2倍に増加している。
- (イ) 庭園文化、茶の湯、武家文化、和歌などの本物の日本の伝統文化に対する関心が高い。
- (ウ) 肥後細川文化がもつ精神性・美意識・歴史背景と相性が良い層であり、本計画における最も重要なターゲットと位置づける。

イ 欧米豪の文化ツーリズム層 (成長市場)

- (ア) 歴史理解や精神文化への探求意欲が高く、熊本の「武の精神・文の教養・水が育む自然美」という文化特性と価値観が合致しやすい。
- (イ) 多言語ガイドや深い鑑賞を支える解説整備により、中長期的に市場成長が期待される層として位置づける。

本計画のターゲットは、文化体験への関心が高い東アジアの訪日客を中心としつつ、国内の文化志向層と都市圏の週末旅行層を確実に取り込み、将来的には欧米豪の文化ツーリズム層へと拡大していく段階的かつ多層的な構造を採用する。

一方で、20~30代の若年層における水前寺成趣園の認知は相対的に低いことが確認される。

主要ターゲットとは位置づけられないものの、将来的な潜在層として、デジタルコンテンツやSNSを通じた接点づくりを進めるべき層として課題に位置づける。

4-1-3. 他の地域との比較

1 岡山市（岡山城・岡山後楽園・岡山県立美術館等）との比較

本計画区域（熊本城エリア・水前寺エリア）は、城郭・庭園・美術館が近接して立地するという点で、岡山市（岡山城・岡山後楽園・岡山県立美術館等）と類似した都市構造を有する。岡山市との比較を通じて、熊本市における文化観光の強み・弱み・機会・脅威を整理すると以下のとおりである。

■岡山市との比較（熊本市との都市間比較）

－「庭園 × 城郭」複合文化観光モデルの比較－

本計画区域（熊本城エリア・水前寺エリア）は、城郭・庭園・美術館が近接して立地する点で岡山市（岡山城・岡山後楽園・岡山県立美術館等）と類似するが、来訪者数の構造に重要な相違がある。熊本市では、令和6年（2024年）の入園者数が熊本城約141.9万人に対し、水前寺成趣園約44万人と「城＞庭園」の構造である。一方、岡山市では岡山城42.6万人に対し後楽園78.1万人で「庭園＞城」の構造となっている。

この相違は、単なる知名度の差にとどまらず、(1) “入口（主目的地）” の設計、(2) セット回遊を生む導線・商品・情報の一体化、(3) 夜間・季節演出による滞在時間の設計、という3点において都市の観光構造が異なることを示す。

(1) “入口（主目的地）” の違い

熊本は全国的知名度を持つ熊本城が「単独で来訪動機を形成」しやすく、復旧公開等の話題性も相まって来訪が城へ集中しやすい。一方で、水前寺成趣園は庭園としての価値が高いものの、城と同日に“必ずセットで行くべき理由（統合ストーリー）” が来訪前に十分に形成されていないため、単点訪問化しやすい。岡山は「日本三名園」に数えられる後楽園が“入口（主目的地）” として機能し、城は後楽園とセットで体験される構造が生まれやすい。

(2) セット回遊を生む「共通券／共通案内／共通ナビ」の成熟度

岡山は、城と庭園を一体的に編集し、共通券、夜間イベント、デジタルガイド等を組み合わせて「セットで巡る」体験を成立させている。これにより、入口である後楽園から城へ自然に波及し、都市全体としての回遊が生まれやすい。一方、熊本は城と庭園が地理的に離れているため、導線・情報・ストーリーの補完がなければ同日回遊が自然発生しにくいにもかかわらず、共通サイン／共通券／統一ナビゲーションが構造として未成熟である点が課題である。

(3) 夜間・季節演出と「滞在時間の設計」

岡山では夜間ライトアップ等の演出や回遊性向上策が実践され、観覧時間の延長や再訪動機の形成に寄与している。熊本でも水前寺成趣園で夜間イベント等により入園者が増加しているが、城・庭園・美術館の三拠点を横断して「夜間も含めてセットで体験する」設計が十分に統合されておらず、滞在延伸→回遊拡大の波及が限定的になりやすい。

以上の比較から導かれる本計画の示唆は明確である。熊本は熊本城の強い集客力を“起点”として活かしつつ、水前寺成趣園と熊本県立美術館を「同日に巡る必然性」として再編集し、城に偏る来訪を「城→文（美術）→水（庭園）」へと流す都市構造へ転換する必要がある。そのために、本計画は以下の方向性へ接続する。

区分	岡山市（後樂園 × 岡山城）	熊本市（水前寺エリア × 熊本城エリア）
文化資源	・特別名勝・日本三名園「後樂園」 ・延養亭・能舞台など藩主文化資産・岡山城（令和の大改修） ・備前焼体験施設・城下町文化（池田家）	・名勝「水前寺成趣園」（湧水庭園） ・夏目漱石第三旧居・ジェーンズ邸など文学・近代史資産 ・熊本城（復旧公開・特別史跡） ・熊本県立美術館・永青文庫展示室（細川家文化）
文化的特徴	庭園文化 × 城郭文化の複合構造	精神文化（細川） × 湧水庭園文化 × 城郭文化 × 城下町文化
基礎	・駅から市電・バスで直接アクセス可能 ・後樂園と岡山城が徒歩5分・橋で連結された構造 ・政令市としての都市基盤が充実	・熊本城は中心市街地に隣接し交通至便 ・水前寺成趣園は阿蘇伏流水による湧水景観を有する（名水百選・江津湖湧水群） ・政令指定都市として文化施設群が集積
観光	・岡山城：42.6万人（令和6年（2024年）） ・後樂園：78.1万人（令和6年（2024年）） ・外国人来訪は両施設とも過去最多	・熊本城：141.9万人（令和6年（2024年）） ・水前寺成趣園：44万人（令和6年（2024年）） ・台湾からの来訪割合が全国平均を大きく上回る（約33%）
共通性	両都市はいずれも、藩政期の庭園文化と城郭文化が都市空間内で近接し、一体的な文化観光を形成している点で共通している。また、都市規模はいずれも政令指定都市であり、文化施設・宿泊施設・都市交通など、文化観光を支える都市基盤が整っている点でも類似性が高い。文化資源の面的活用を進める上で、観光動線や夜間イベント、多言語対応の重要性が共有されている。	
特徴	後樂園・岡山城を旭川河畔で連結することで、庭園と城郭を一体的に鑑賞できる都市観光モデルを構築している。展示更新、ライトアップ事業、「共通券」、デジタル案内など、文化資源の編集・発信が進んでいる。	熊本城と水前寺成趣園という性質の異なる二つの文化資源を有し、「復旧公開」「湧水景観」「細川文化」「城郭文化と城下町文化の歴史的連続性」など、多層的な文化体験を提供している。一方で、両エリアが地理的に離れており、面的に結びつきにくいという課題がある。
強みの強化・弱みの克服（方向性） 岡山市の先行事例は、「庭園 × 城郭」という異なる文化資産を、共通券、夜間イベント、デジタルガイド等により一体的に編集し、面的な文化観光として成立させている点に特徴がある。 一方、熊本市は、熊本城に代表される城郭文化、阿蘇伏流水に支えられた湧水庭園文化、そして肥後細川家に連なる精神文化という、全国的にも稀少な文化の層を併せ持つことが本質的な強みである。 そのため、熊本市においては、こうした「城郭 × 庭園 × 湧水 × 精神文化」を文化軸として明確に位置づけ、これらを統合した物語性のある文化体験を提示することで、熊本城エリアと水前寺エリアの相互補完的な回遊を促進する必要がある。 また、岡山市では、後樂園・岡山城において外国人来訪者数が過去最多となり（後樂園18.8万人、岡山城7.7万人）、多言語案内やキャッシュレス決済、デジタルガイド等の受入環境整備が観光行動を後押ししていることが確認されている。 これは、外国人旅行者にとって使いやすい案内・表示・サービスが、文化観光の利用拡大に不可欠であることを示すものである。 熊本市においても、台湾からの来訪者が全体の約3割を占めるという特徴的な市場構造を踏まえつつ、実際の需要に応じた多言語案内、電子チケット、キャッシュレス決済、文化体験の多国籍対応等を整備することで、本市の文化価値をより深く体験できる環境を整える必要がある。 これらの取組を通じて、本来有する「城郭 × 庭園 × 湧水 × 精神文化」という複合的な文化資源の価値を都市全体で高め、面的な文化観光の成熟につなげていく方向性が導かれる。		

(1) 本計画地域の強み・契機

7. 細川家を核に「武の精神・文の教養・水が育む自然美」が一体で語れる文化体系
城郭（熊本城）—庭園（水前寺成趣園）—美術・文芸（熊本県立美術館・永青文庫展示室）の
「面での連関」を物語として提示できるポテンシャルを有する。
- イ. インバウンドの急伸と東アジア市場の厚み
令和6年度（2024年度）の外国人入込139.2万人（2019年比約2倍）、外国人宿泊89万人へ拡大。国籍構成は東アジア中心で、台湾が最大。今後も受入強化の投資対効果が大きい。
- ウ. 市内交通・電子化の進展をいかにせる基盤
市電・バス等の公共交通と電子チケット等の活用が進み、多言語案内・デジタル導線の実装余地が広い。
- エ. 他都市（岡山）との対比で見える「差別化の核」
岡山は岡山城×後樂園×美術館が徒歩圏で一体運用しやすい強みを持つ一方、熊本は細川家コレクションと湧水庭園の精神性で「深い文化体験」に訴求できる。

4-2. 課題

課題① 展示・解説の魅力不足

1. 熊本城エリア、水前寺エリア、熊本県立美術館・永青文庫展示室はいずれも優れた文化資源を有するが、「都市としての歴史文脈を一体的に理解させる展示・解説」が不足している。とくに細川文化の核である「武（城）× 文（芸術・和歌・茶）× 水（庭園）」を横断して学べる二層解説（入門／深掘り）の設計が弱く、拠点間の文化的関連性が来訪者に届きにくいいため、回遊や滞在延長といった行動変容につながりにくい。
なお、熊本城は既に観光の起点として一定の案内・解説整備が進んでいる一方、熊本県立美術館・水前寺成趣園側でのストーリー提示（入門／深掘りの二層解説、多言語等）が不足しており、重点的に改善を図る必要がある。

課題② インバウンド対応の不足（多言語・キャッシュレス等）

1. インバウンドが過去最高水準に伸長する中（外国人延べ宿泊 89 万人、外国人入込 139 万人）※令和 6 年（2024 年）、熊本市観光統計、英中韓などの多言語解説、キャッシュレス決済、免税、国際案内サイン等の受入環境は施設間でばらつきがある。岡山（後樂園の夜間特別開園の多言語発信や岡山城の共通券・決済案内）に比べ、訪日客の理解・購入・移動を一体化する仕組みが相対的に弱い。

課題③ 回遊性・導線の弱さ

1. 熊本城エリアは市電・徒歩動線や商業導線が比較的整っている一方で、水前寺エリアは「単点訪問」化しやすく、周辺回遊や熊本県立美術館・永青文庫展示室との文化的連続性が弱い。結果として、本来一体で体験されるべき「武（城）→ 文（芸術・和歌・茶）→ 水（庭園）」のストーリー動線が行動に反映されていない。
また、岡山（後樂園—岡山城）のように、城・庭園・館を「セットで巡る」導線や共通サイン・共通チケット・統一ナビゲーションが構造的に整備されておらず、三拠点が近接していながら回遊が生まれにくい状況にある。
なお、岡山（城—後樂園）のような隣接型に比べ、熊本は熊本城と水前寺が地理的に離れていることから、導線・情報・ストーリー補完がなければ同日回遊が自然発生しにくい。

課題④ 情報発信・ブランドの統一性不足

1. 国内外の城郭・大名庭園等との競争が激化する中、単なる景観比較ではなく、細川家の独自性を核とした都市ブランドで差別化を図る。熊本城、水前寺、熊本県立美術館など、市内の文化拠点は各々が魅力的であるものの、岡山が行っているような「都市全体の統一ブランド」「共通コンセプト」が不足しており、「肥後細川文化」という統一ストーリーが来訪前の動機形成につながっていない。
特に Web/SNS/現地サインが分断され、「統一された世界観」として体験が積み上がりにくいことが課題である。

課題⑤ 収益構造と再投資の仕組みの弱さ

1. 熊本城側には物販・飲食・イベント等の収益機会が相対的に多い一方で、水前寺および熊本県立美術館・永青文庫展示室では、文化体験の通年化や商業との連動が限定的で、収益→展示更新→魅力向上の好循環が弱い。比較先では、岡山（後樂園）で、夜間や呈茶等の体験と商業が「維持管理・演出への再投資」に結びつく循環が見られる。

4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

本計画は、4-2 で整理した 5 つの課題に対応し、熊本城エリア・水前寺エリア・熊本県立美術館（永青文庫展示室）という、「武 × 文 × 水」が有機的に結びつく熊本独自の文化空間を、来訪者が理解し、巡り、体験し、地域へ還元する循環モデルへ転換することを基本方向とする。

あわせて、本計画の地域をつなぐコンセプトを「武と文が息づく、水の都の文化回廊」とし、市民が守りつないできた肥後細川文化を軸に、「武」「文」「水」をキーワードとして、美術品・庭園の鑑賞に加え、その背景にある美意識や哲学までを伝えることで、高品質な日本文化体験の提供を目指す。

岡山市との比較、また市内各エリアとの比較で顕在化した弱点を補完し、以下の 5 点を重点方針として設定する。

方向性① 統合ストーリーによる展示・解説の強化

熊本城・熊本県立美術館・永青文庫展示室・水前寺成趣園の三拠点を、「武（城）→ 文（芸術・和歌・茶）→ 水（庭園・湧水）」の三段階で体験できる文化回廊として再構築する。

細川文化の核となる価値を横串で理解できるよう、入門（熊本城エリア）→ 深掘り（熊本県立美術館（永青文庫展示室））→ 没入（水前寺成趣園）の体験段階に応じて、①要約（現地で読む）／②深掘り（QR・Web・映像・音声で学ぶ）の「二層解説」を共通仕様として整備し、用語・表記・ストーリーラインを統一することで、拠点間の文化的関連性（武×文×水）を可視化する。

多言語解説は、英語・中国語（簡体／繁体）・韓国語等を想定し、媒体特性（サイン／Web／音声等）に合わせて段階整備を行う。なお、多言語解説文は観光庁指針「How To 多言語解説文整備」に沿って制作する。

岡山が実践する「都市としての歴史文脈を一体で理解させる展示体系」を参照し、文化の一体提示を強化する。

水前寺成趣園では、湧水・意匠・和歌・茶などの意味（精神性）を、要約→深掘りの二層解説と体験導線で可視化する。

熊本城については、城内の解説パネル更新は本計画では行わないが、熊本城エリアの関係施設（熊本県立美術館、博物館等）や共通サイン・デジタル解説（QR・多言語）により、「武×文×水」のシナリオラインに沿った理解導線を補完し、熊本県立美術館・水前寺成趣園への回遊につなげる。

- ① 入門（熊本城エリア）：来訪の入口として、城下の歴史骨格と肥後細川文化の全体像（武×文×水）を短時間でつかめる導入解説（要約）を整備し、熊本県立美術館・水前寺へつながる「次に行く理由」を共通サイン／デジタル導線で提示する（※城内の解説パネル更新は対象外）。
- ② 深掘り（熊本県立美術館（永青文庫展示室））：細川コレクション等を核に、導入解説・長文解説を「入門／深掘り」の二層で再編集し、鑑賞ポイント（美意識・和歌・茶の湯等）が水前寺の体験へ接続するよう、QR・音声・映像等で補完する。
- ③ 没入（水前寺成趣園）：庭園体験（歩く・眺める）を軸に、湧水景観、作庭思想、出水神社・古今伝授の間等を一体の物語として提示し、現地要約サイン＋QR 深掘り（音声・映像を含む）により、背景理解と体験を往復できる解説導線を整備する。

期待効果：来訪者の文化理解が深まり、滞在時間・回遊意欲が向上する。
（→課題①・④に対応）

方向性② 国際水準の受入環境整備

訪日客の主要市場（東アジア中心）に合わせ、英中韓での解説・予約・決済導線を整備し、免税・キャッシュレス・国際サインを都市標準にする。岡山の夜間演出の多言語発信・共通券の運用等、先行事例の良い実践を熊本版に翻案する。

主要市場（東アジア）への対応を強化しつつ、為替・情勢等の変動に備え、欧米豪等の学び志向市場の育成にも取り組み、市場構成の多角化を図る。

期待効果：外国人来訪者の理解度・満足度・行動範囲が拡大し、回遊率が向上する。
(→課題①・②に対応)

方向性③ 三拠点を結ぶ回遊導線の確立

「熊本城 → 熊本県立美術館本館（永青文庫展示室） → 水前寺成趣園」を結ぶルートを、徒歩・市電・紙地図・デジタル地図（GPS／多言語）の「共通仕様」で整備する。岡山（城—後樂園の面整備・季節／夜間演出）と同様に、「共通サイン／共通券／共通ナビ」を段階導入し、「セットで巡る」体験を定着させる。

期待効果：単点訪問が解消され、平均訪問拠点数、滞在時間、消費額が向上する。
(→課題③・④・⑤に対応)

方向性④ 統一ブランドと一体広報による都市価値の向上

熊本城・水前寺成趣園・熊本県立美術館の発信を統合し、「肥後細川文化＝武 × 文 × 水の都」として都市ブランドを確立する。

共通ビジュアル・統一メッセージを採用し、Web／SNS／旅行商材／現地サインを統一デザインで運用することで、来訪前から現地体験まで一貫した世界観を提示する。

期待効果：動機形成が強化され、文化体験への参加率が高まり、観光需要の質が向上する。
(→課題②・④に対応)

方向性⑤ 運営連携・データ活用・再投資モデルの構築

熊本城・水前寺成趣園・熊本県立美術館・永青文庫展示室をはじめ、熊本国際観光コンベンション協会（DMO 機能）・商店街・交通事業者が連携し、横断的な運営体制、データ分析に基づく改善、収益の再投資を組み合わせた文化観光経営モデルを構築する。

共通パス・体験・物販収益の一部を文化振興基金として積み立て、展示更新・デジタル化・人材育成へ再投資する。

さらに、入場データ・回遊率・満足度・購買履歴などを統合し、四半期ごとの KPI 評価（PDCA）を行うことで、施策を継続的に改善する。

例）夜間ライトアップ、学芸員等による少人数解説ツアー、呈茶等の体験を組み合わせ、「わかる × 楽しい」を通年で提供する。

期待効果

① 「文化価値向上 → 来訪増 → 収益増 → 再投資」の好循環が成立する。

② 多主体連携により、事業効果最大化と持続性が確保される。

(→課題⑤に対応)

4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

本計画区域は、熊本城、熊本県立美術館（永青文庫展示室）、水前寺成趣園等、県立施設と市管理施設が近接して立地し、歴史・文化・自然が複層的に重なり合う文化圏を形成している。

この特性をいかした文化観光の推進は、文化の振興のみならず、地域経済の活性化、国際相互理解の増進、地域住民の文化的豊かさの向上へ波及し得る。したがって本計画は、文化観光を「実施する」だけでなく、文化資源への継続的な再投資を可能とする財源と評価の仕組みを同時に構築し、好循環を制度として成立させることを目的とする。

熊本市では、観光振興の安定財源として宿泊税が導入され、令和8年（2026年）7月1日から課税開始（税率：1人1泊200円）となる。

この宿泊税収は、観光振興施策に充当される目的税であることから、本計画区域における文化観光施策の主要な財源の一つとして位置づけ、

「整備（投資）→来訪・回遊増→宿泊増→宿泊税増→再投資」という循環を、EBPM（証拠に基づく政策立案）で検証しながら回す運用モデルを採用する。

そのうえで、本計画区域では上記方向性に基づき、文化と経済の両面から、持続可能な文化観光マネジメントを構築する。

また、本計画は、来訪者の文化理解や回遊促進にとどまらず、地域のにぎわい創出、市民・県民のシビックプライド醸成、学校教育・次世代育成にも資する取組として推進する。水前寺参道商店会、水前寺活性化プロジェクトチーム、水前寺成趣園まつり実行委員会等の地域団体と連携し、地域行事、文化体験、学習機会を通じて、来訪者だけでなく市民・県民が肥後細川文化に触れ、学び、誇りを持つ機会を創出する。

5. 目標

目標①：文化観光拠点施設への来訪者数（課題①・②関連、取組強化事項①・②・④関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<設定の考え方>

- ・文化観光を目的とした文化観光拠点施設の利用度を測るため、年間の入館者数を指標として設定する。集計地点は、水前寺成趣園、熊本県立美術館（本館）※、の2箇所とする。※永青文庫展示室は本館の一部（別棟）の扱い。
- ・指標定義：水前寺成趣園＋熊本県立美術館（本館）の年間入館者（暦年合算）。
- ・基準年（令和6年（2024年））：水前寺成趣園 440,093 人、熊本県立美術館 77,622 人→ 合計 517,715 人。
- ・令和7年（2025年）：水前寺成趣園 458,639 人、熊本県立美術館 51,004 人→ 合計 509,643 人。
- ・年平均＋約6%で増加させ、令和12年（2030年）に64万人を目標とする。

<把握の方法>

- ・熊本市観光統計において把握している月間・年間集計に用いる数値を引用する。

年度	実績		目標				
	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
目標値	517,715 人	509,643 人	550,000 人	580,000 人	610,000 人	640,000 人	640,000 人
事業1－①： 水前寺成趣園 魅力強化事業					企画調整・検討、 優先ポイントにお ける解説文案・導 入表示の整備着手	主要解説の本格整 備、多言語化の段 階実施	
事業1－②： 熊本県立美術館 常設展示魅力強化事業			企画調整・検討	二層解説の設計・ 試行、多言語対応 範囲の整理	主要解説・導入解 説の本格整備	主要解説・導入解 説の整備・更新・ 増補	解説更新・定着、 回遊効果の検証と 改善
事業1－⑦： 肥後細川文化サテライ ト展示・多言語解説整 備事業				事業設計・展示方 針整理	サテライト展示整 備、二層解説の導 入、多言語解説内 容の設計	展示更新・ローテ ーション運用、多 言語解説の本格導 入、送客導線強化	展示更新・継続運 用
事業1－⑧： 水前寺エリア文化回遊 導入・送客促進事業			導入プログラム基 本設計	導入展示・導入解 説・文化体験導入 プログラムの試行	反復実施型プログ ラムの本格運用	周辺施設送客導線 の強化、内容更新	継続実施・定着

事業５－①： 細川家歴史館整備事業			調査・基本計画策 定	設計・優先整備内 容整理	段階整備	追加整備・運用改 善	保守更新・効果検 証
事業５－② 熊本県立美術館（本 館）展示施設改修・設 備更新事業			調査・基本計画策 定	設計・整備方針整 理	段階整備	運用改善	保守更新・効果検 証
事業５－⑥ くまもと文学・歴史館 における肥後細川文化 サテライト展示・来訪 者閲覧環境整備事業			整備方針整理	導入解説・閲覧環 境の設計	多言語・視覚的閲 覧環境整備	更新・運用改善	継続活用

目標②：文化観光拠点施設の外国人来訪者数（課題②関連、取組強化事項①・②・④関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜設定の考え方＞

- ・文化観光を目的とした文化観光拠点施設の利用度を測るため、年間の入館者数を指標として設定する。集計地点は、水前寺成趣園、熊本県立美術館（本館）※、の2箇所とする。※永青文庫展示室は本館の一部（別棟）の扱い。
- ・指標定義：水前寺成趣園＋熊本県立美術館（本館）の年間の外国人入館者（暦年合算）。
- ・基準年（令和6年（2024年））：水前寺成趣園 85,270 人、熊本県立美術館 3,105 人→ 合計 88,375 人。
- ・令和7年（2025年）：水前寺成趣園 96,824 人、熊本県立美術館 2,040 人→ 合計 98,864 人。
- ・目標：計画開始から10年後（＝令和16年（2034年））に2倍（＝176,750 人）にすることを目標とし、10年間の年平均成長率に基づき、毎年約7.2%の伸び率で増加させる計画とする。

＜把握の方法＞

- ・熊本市観光統計において把握している月間・年間集計に用いる数値を引用する。

年度	実績		目標				
	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
目標値	88,375 人	98,864 人	102,000 人	109,000 人	117,000 人	125,000 人	134,000 人
事業1－⑥ 肥後細川文化の流れを 汲む伝統的工芸品魅力 発信事業			整備方針整理	設計・整備	整備・運用開始	運用改善・継続実 施	定着
事業2－①： デジタル文化回遊パス 導入・周遊促進事業			制度設計・要件整 理	共通パス導入・販 売導線整備	運用改善・利用促 進	多言語販売導線の 改善	継続運用・定着
事業4－①： 海外市場向け文化観光 ウェブコンテンツ充 実・多言語発信事業			調査・基本計画	多言語特集記事・ モデルルート等の 企画設計	コンテンツ公開・ 導線整備	内容拡充・回遊訴 求強化	継続運用・定着
事業5－③： 洋学校教師ジェーンズ 邸ライトアップ 機材等の整備事業			調査・基本計画策 定	設計・整備準備	整備・運用開始	運用改善	定着

目標③：計画地域における体験価値・満足度の向上（課題①・③・④関連、取組強化事項③・④・⑤関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜設定の考え方＞

・本計画で対象とする熊本城エリア・水前寺エリアは、熊本市観光の中核をなす「2大文化観光拠点」であり、来訪者の多くが両エリアを中心に市内を周遊している。

そのため、両エリアでの体験価値は、来訪者が回答する「熊本市観光満足度調査」に直接反映される構造となっている。

・「熊本市観光満足度調査」において、総合満足度は96%台（令和6年（2024年））と高水準のため、体験の質向上を可視化する上振れ志向KPIとして「とても満足」と回答する割合を引き上げる（前年差（+1.3pt））ことを目標とする。

・また、体験価値の向上には、来訪者の満足度のみならず、施設管理者・文化団体・事業者・行政など、関係者自身の協働に対する満足度の向上が不可欠である。

・本計画では、毎年度、実施状況及び目標達成状況について点検および評価を行うこととしており、その中で、関係者の協働に関する満足度や役割分担の明確性に関する評価を把握する。これにより、協働体制の質と満足度の向上を図る。

＜把握の方法＞

・「熊本市観光満足度調査」より集計する。

・なお、各文化観光拠点施設における個別の満足度については、熊本県立美術館の展覧会アンケートや、水前寺成趣園のお休み処に設置するご意見箱等により、来訪者の意見を把握している。

・現時点では、両施設において毎年度同一条件で比較可能な十分な回答数を確保できる満足度調査の仕組みが整っていないため、計画期間を通じて継続的に把握できる「熊本市観光満足度調査」を主指標とする。

・一方で、各施設で把握する個別意見や満足度については、主指標を補完する参考指標として位置付け、協議会におけるPDCA及び事業改善に活用する。

年度	実績		目標				
	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
目標値	68.5%	69.8%	71.1%	72.4%	73.7%	75.0%	76.3%
事業1ー③： 文化回遊案内サイン （コンテンツ）整備事業 （多言語・QR・更新運用）			情報設計・整備	本格実施・回遊導線への組み込み	内容拡充・磨き上げ	運用改善・効果検証	定着・継続運用

事業１－④： 出水神社記念館機能整備検討事業						整備方針の策定 候補案・ロードマップ作成	次年度以降の運用 改善への接続
事業１－⑤： 水前寺地区記念館回遊性事業			連携施策設計・試 行	運用・連携	利便性向上	分析・改善	定着・継続運用
事業２－②： 結節点（市電乗り場 等）案内の整備・デザ イン統一事業			結節点案内の整備	案内改善・増補	運用改善	更新	継続運用
事業５－④ 文化回遊案内サイン （ハード）整備事業 （製作・設置・撤去更 新）			設計・段階的整備	設計・段階的整備	追加整備・機能拡 張	運用改善・保守更 新	安定運用・効果検 証
事業５－⑦ 出水神社記念館機能整備検討事業			設計・整備仕様検 討	設計・整備仕様検 討	整備方針策定	段階的整備・供用 開始	整備拡張・導線強 化

目標④：計画地域における宿泊者数（課題④関連、取組強化事項⑤関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜設定の考え方＞

- ・宿泊税は令和8年（2026年）7月1日チェックイン分から課税開始、宿泊者1人1泊200円、課税標準は宿泊数（人泊）である。
- ・本計画区域（熊本城エリア・水前寺エリア）は市内周遊の核であり、回遊・夜間早朝・情報提供等による行動コスト低減が進めば、滞在延伸→宿泊化（泊数増）に波及しやすい。よって、循環（再投資→宿泊増→再投資）を検証可能とする成果指標として、目標④は「課税宿泊数（人泊）」をKPIとして管理する。（年成長率＝ $4,180,000 \div 4,023,456 - 1 \div +3.89\%$ /年）

＜把握の方法＞

- ・熊本市観光統計において把握している月間・年間集計に用いる数値を引用する。

年度	実績		目標				
	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
目標値	4,023,456人	4,180,000人	4,343,000人泊	4,512,000人泊	4,687,000人泊	4,870,000人泊	5,059,000人泊
事業3－①： 「肥後細川文化×水」 体感型文化回遊プロ ラム創出事業			調査・基本計画策 定	造成・試行	本格実施	夜間・早朝活用と の接続、宿泊需要 への波及強化	定着
事業5－⑤ 水前寺周辺（参道等） ライトアップ・安全導 線整備事業			調査・基本計画策 定	設計・試行準備	整備・試行	周辺回遊・夜間滞 在促進に向けた改 善	定着

6. 目標の達成状況の評価

本計画は、「肥後細川文化観光協議会」において、毎年度、計画の実施状況や目標の達成状況等について点検および評価を行い、その結果を踏まえて改善に向けた対応を行い、翌年度以降の事業へ反映していく。

この協議会には、文化施設、観光関係団体、地域関係者等が参画し、文化資源の保存・活用と観光振興を一体的に推進するための総合的な評価体制を整える。

さらに本計画は、「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との整合性を確保しながら運用する。

同計画は、水前寺成趣園および周辺の文化景観を将来にわたり保存・継承していくための基本的な方針や方向性を示すものであり、本計画における文化観光の推進にあたっては、同計画が示す保存・活用の理念や空間整備の方向性を適切に参照し、文化景観の保全と来訪者が享受する文化体験が調和するよう、両計画の目指す方向性を揃えながら評価・改善を行う。

とりわけ、水前寺エリアは湧水文化・近代史・参道商店街が面的に連続する文化景観を有するため、その保存・活用の基本方針が、エリア全体の回遊性や文化体験価値の向上に密接に関係する。

したがって、同計画の示す保全理念や空間のあり方に関する方向性を踏まえつつ、本計画で実施される文化観光施策や来訪者対応、案内整備等の取組が、相互に補完し合うよう連動した点検と改善を進めていく。

7. 中核とする文化観光拠点施設

文化観光拠点施設名	熊本県立美術館
主要な文化資源	
1 施設の概要 熊本県立美術館は、肥後細川家ゆかりのコレクションをはじめとする多様な資料・作品を収蔵・展示し、調査研究・教育普及を通じて地域の文化的アイデンティティを発信する拠点である。水前寺成趣園と主題的連関を持ち、二極構造による回遊を形成することで、来訪動機の深化と鑑賞体験の拡張をもたらす。 2 文化資源の概要 当該拠点は、美術・工芸・歴史資料等にわたる学術的価値の高い文化資源を保有し、特別展・常設展・教育普及プログラム等を通じて、地域文化の独自性と普遍性を提示する。細川文化に通底する美意識や水と景観の表象を、展示解説や関連事業と結び付けて理解させる構成を採る。 3 主要な文化資源についての解説・紹介の状況 展示室内外の解説・紹介は、作品解説、テーマ解説、教育普及素材を組み合わせ実施している。今後は、主要資源の価値情報を体系的に提示し、ICTの活用及び外国語対応の強化を行って、来訪者が文化理解を深められる多層的な解説を提供する。これらは文化観光拠点施設に求められる解説・紹介の要件に適合する。	
主要な文化資源についての解説・紹介の状況	
現状の取組	
1 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） - 熊本城二の丸に立地する県立美術館として、展覧会情報等を公式サイトで発信し、来館者に向けた基本情報（開館時間、休館日、アクセス等）を整備している。 - 教育普及事業として、学校団体の受入、事前学習用動画、鑑賞ワークシート、鑑賞教材（アートカード）等を提供し、作品理解を促す解説・教材を展開している。 - 子ども・家族向けの制作・体験型ワークショップや、学芸員のギャラリートーク等の学習機会を提供している。 - 永青文庫展示室（別棟展示室）は施設設備保全の改修工事により、令和6年（2024年）4月1日から令和8年（2026年）12月頃まで閉室予定であり、閉室中は本館第2展示室の「細川・美術館コレクション」展等で細川コレクションを紹介している。 2 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） - 学芸員による作品解説をスマートフォン等で閲覧できる無料アプリ「ポケット学芸員」を導入し、学校内の調べ学習や校外学習等での活用も案内している。 3 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） - 展示室内の案内表示や主要な展示解説については、スマートフォンの翻訳機能を活用して多言語化に対応している。加えて、学芸員による解説をスマートフォンで閲覧できる無料アプリ「ポケット学芸員」を活用し、一部の作品について展示解説を多言語（英語・中国語〔簡体／繁体〕・韓国語等）で提供している。 - 県公式サイト の館ページは、「Foreign Language」表示等の導線を備えており、外国語対応を含むアクセシビリティ面の基盤を有している。	

本計画における取組

- 1 **文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）**
 - ・来館者が理解段階に応じて鑑賞を深められるよう、肥後細川文化を中核とする学芸解説・教材・講座等の成果を「入門（要約）→深掘り（背景・解釈）」の二層で再編集し、展示室入口の導入解説として体系的に提示する計画である。
 - ・来館者が県美で得た理解を水前寺で体験できるよう、水前寺成趣園と主題的に連関する企画等を実施し、武家文化・和歌・茶の湯等を軸に、両拠点の文化的連続性を物語として分かりやすく提示する計画である。
- 2 **情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）**
 - ・展示室入口に導入パネルを設置。拠点間で統一したストーリーライン（武×文×水）に沿って二層解説（要約／深掘り）として再編集した水前寺成趣園と細川家（あるいは細川コレクション永青文庫展示室）とをつなぐ解説を、導入パネルに記したQRコード等でスマートフォンから閲覧できるようにする。
 - ・来館者の行動変化（理解度・満足度・回遊）を改善につなげるため、来館者満足度、相互回遊率、共同企画参加等の共通指標を整備し、年次で分析・改善するPDCAを制度化する計画である。
- 3 **外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）**
 - ・外国人来館者が母語に近い言語で理解できるよう、上記2の導入パネルから閲覧できる解説を、段階的に多言語化整備する計画である。
 - ・スマートグラス等の機器を活用し、外国人来館者がスムーズに館内を回れるよう翻訳機能の強化を行う。
 - ・多言語解説文の制作にあたっては、観光庁指針「How To 多言語解説文整備」に沿って作成し、読みやすさ・分かりやすさ・用語統一等の品質管理を行う計画である。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- 1 **文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築**
 - ・計画区域における推進体制として、熊本市観光政策課が事務局となり、県・市・県立美術館・水前寺成趣園等とともに、熊本国際観光コンベンション協会（DMO機能）等を含めた連携体制（協議会）を構築する方針である。
 - ・文化観光推進事業者の一つである熊本国際観光コンベンション協会は、観光客誘致・受入体制整備、観光案内所運営、旅行商品の造成、動向調査等を実施する組織である。
- 2 **文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析**
 - ・観光関係団体・事業者及び関係行政部局と、展示・イベント情報の共有、広報協力、来訪傾向に関する情報交換を行っている。
 - ・教育普及プログラム等の実施状況を把握し、事業改善に活用している。
- 3 **文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立**
 - ・関係者との情報共有を通じ、広報や受入に係る改善を適宜行っている。
 - ・展示・教育普及・イベント等の実施結果を踏まえ、必要に応じて内容・運営を見直している。

本計画における取組

- 1 **文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築**
 - ・熊本国際観光コンベンション協会等の文化観光推進事業者と連携し、旅行者目線でのコンテンツ磨き上げ、プロモーション、受入・回遊設計、データ収集・分析を一体的に実施する計画である。
 - ・永青文庫展示室の閉室期間中も、本館での展示や情報発信を連携して継続し、来訪機会の確保と理解促進を図る計画である。

2 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

- ・文化観光推進事業者（熊本国際観光コンベンション協会（DMO機能）等）と連携し、来館者数、属性、来館目的、満足度等の基礎データを継続的に収集・整理するものである。
- ・熊本県立美術館—水前寺成趣園連携の効果検証に資するため、共同企画の参加者数、共通チケット等の利用状況、相互回遊の状況（熊本県立美術館→水前寺成趣園、水前寺成趣園→熊本県立美術館）等のデータを関係者で共通化し、収集・整理するものである。
- ・情報発信の改善に資するため、WEB・SNS・デジタル解説等の閲覧状況（アクセス、反応、言語別傾向等）を把握し、文化観光推進事業者が有する観光動向データと突合して分析するものである。
- ・収集したデータは協議会において共有し、課題抽出及び優先順位付けに活用するものである。

3 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

- ・文化観光推進事業者と連携し、肥後細川文化の価値情報を核に、展示・教育普及・地域連携を通じて理解促進と回遊を生む事業方針を策定するものである。
- ・KPIは、文化観光推進事業者と共通の指標として、来館者数・満足度、共同企画の実施件数・参加者数、相互回遊率、共通チケット等の利用状況、情報発信の成果等を設定するものである。
- ・年度当初に事業計画とKPI目標を設定し、年度中に進捗を共有し、年度末に実績を評価する運用を協議会で確立するものである。
- ・評価結果に基づき、解説導線、プロモーション、共同企画内容、受入体制等の改善策を整理し、次年度計画へ反映するPDCAサイクルを確立するものである。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

民間事業者、メディア、教育研究機関、交通・流通事業者等と、展覧会関連の共同企画、広報連携、限定的な周遊施策を行っている。

本計画における取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

本計画では、前号に掲げる者以外の文化観光推進事業者とも協働し、事業の企画及び実施を計画的に展開する。具体的には、公共交通事業者（市電・路線バス等）と共同で、拠点間回遊を前提とした移動の分かりやすさを高める取組（乗換案内・時刻・運賃・乗り場等の情報提供の充実、多言語表示・デジタル案内の整備）を進めるとともに、共通パス又はデジタルスタンプと公共交通利用を連動させ、相互送客と周遊促進を図る。あわせて、宿泊事業者とは夜間・早朝コンテンツ等と組み合わせた宿泊プラン造成や周遊特典の提供により滞在延伸と宿泊化を促進し、商店街・地元事業者（参道・周辺）とは回遊導線上の案内・受入環境整備や年間プログラムと連動したにぎわいづくりを進める。さらに、旅行・観光流通、教育・文化団体等とも連携し、教育普及の連携強化やデータ提供の協力体制を整備する。これらの取組は、施行規則第2号に規定される連携内容に適合する。

1 施設の概要

水前寺成趣園は、肥後細川文化と「水の景観」を体現する文化景観資産であり、泉水、築山、園路、借景等の景観構成要素と、水前寺成趣園内に所在する出水神社及び古今伝授の間等の資源が総合的に体験可能な施設である。出水神社は水前寺成趣園の管理主体であり、宗教施設としての独自性と水前寺成趣園の管理運営上の中核性を併せ持つため、本拠点の構成要素として包含して位置付ける。水前寺成趣園は市内外の文化観光回遊の起点として機能し、周辺の文化施設への来訪を促す役割を担う。



また、出水神社では、肥後細川家の初代藤孝公、二代忠興公、三代忠利公、八代重賢公を主神とし、歴代の藩主ならびに玉姫（ガラシャ夫人）を合祀している。庭園（景観）・建造物（古今伝授の間）に加え、人物史・信仰（出水神社）を一体の文化空間として提示できることは、肥後細川文化の理解を深める解説・紹介の“厚み”を生み、観光関係者（文化観光推進事業者、参道等）と連携した回遊・情報提供を設計しやすい点で、本計画における拠点性の優位性となる。

2 文化資源の概要

当該施設は、細川家の美意識に根差した作庭思想を背景に、水系・地形・借景を活用して四季の移ろいを観賞させる空間構成を有する。古今伝授の間は御所文化の継承を象徴する空間であり、出水神社は水前寺成趣園の歴史的形成・維持管理と不可分の宗教的・文化的価値を備える。これらの資源は、歴史上・芸術上・学術上及び観賞上の価値を重層的に示すものである。



3 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

水前寺成趣園内の主要資源については、現に来訪者向けの現地解説及び案内が行われている。今後は、主要資源の由来、資源間の関係性、価値評価に関する情報を適切に活用しつつ、情報通信技術の活用及び外国語対応の一層の充実を図ることで、国内外の来訪者が文化理解を深められる解説・紹介体制を整備する。これらは、文化観光拠点施設の解説・紹介に求められる要件（価値情報の適切な活用、ICTの適切な方法、来訪状況に応じた外国語の使用）に整合する。

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

1 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- ・園内では、園路上の見どころ（湧水景観、築山、能楽殿、古今伝授の間等）に関する解説案内板や園内マップ等により来園者への情報提供を行っている一方、解説案内板の設置箇所・情報量には偏りがあり、来園者が園内全体を通して物語として理解できる導線は十分に整っていない。
- ・また、一部の解説案内板は老朽化が見られ、記載内容（用語・表現・更新情報等）も最新の来訪者ニーズ（回遊・体験・背景理解）に必ずしも対応できていないため、情報更新と見せ方の改善が課題となっている。
- ・園内の建築物については、見学機会はあるものの、建物内で来園者が体系的に学べる常設の解説展示コーナー（導入展示・資料閲覧・ミニ展示等）は限定的であり、庭園体験と連動した理解促進の余地がある。
- ・年間行事（例：春季大祭、ライトアップ等）は継続的に実施されているが、行事と園内解説が一体となって「水前寺＝水の文化」を理解させる常設的な解説設計（平常時の導入・深掘り導線）は十分ではない。

- 2 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）**
- ・現状では、園内情報は紙の園内マップ等による提供が中心であり、現地で深掘り情報にアクセスできるQR導線や、更新頻度の高い情報をデジタルで適時更新する運用（誰が・いつ・どう更新するか）の仕組みは十分に整備されていない。
 - ・混雑期・イベント時の来園者行動（滞留、回遊、見落としポイント等）を踏まえ、現地表示とデジタルを組み合わせた分かりやすい導線設計に改善余地がある。
- 3 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）**
- ・現状の園内解説は日本語中心であり、園内の解説案内板・導入説明等における外国語表記は限定的である。来園者が庭園体験をしながら背景理解を深めるための、多言語解説（英語・中国語・韓国語等）やピクトを活用した情報提供について、改善余地がある。
 - ・とくに、庭園の価値（湧水・作庭思想・和歌・茶の湯等）を「要約→深掘り」で理解させる多言語導線は未成熟であり、来園体験の質向上に向けた整備が必要である。

これらの課題を踏まえ、本計画では、水前寺成趣園の主要資源（庭園・出水神社・古今伝授の間等）を対象に、入門（要約）／深掘り（背景・解釈）の二層解説、多言語化、QR等による深掘り導線を整備し、必要に応じて常設的な解説拠点（サテライト機能）の整備方針検討を進める。

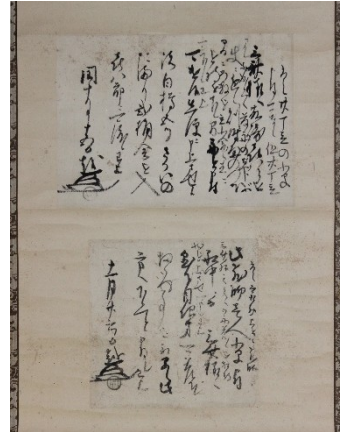
本計画における取組

- 1 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）**
- ・庭園景観の鑑賞に加え、湧水・庭園作庭思想、出水神社、能楽、古今伝授等を肥後細川文化の物語として整理し、来園者が「本物の日本文化」を体感できる解説・体験の高度化を図る計画である。
 - ・祭礼・催し等（例：春季大祭、ライトアップ等）の既存資源を活用し、周遊・滞在価値を高める体験プログラムの磨き上げを行う計画である。
 - ・出水神社が所蔵する宝物（例：細川藤孝公肖像画、忠利公御筆、脇差（忠興所用と伝わるものを含む）、波奈之丸図、水前寺御茶屋図、藤孝公初陣の図、黒漆塗牡丹獅子蒔絵鞍 等）について、由来・背景・見どころを整理した解説素材（入門／深掘り）を整備する。
 - ・上記の解説素材は、水前寺エリアにおけるサテライト展示での活用を見据えつつ、園内における「常設展示（または常設的なローテーション展示）」としての活用可能性も並行して検討し、庭園・出水神社・古今伝授の間が一体となった文化空間の中で、肥後細川文化（人物史・信仰・武家文化・文芸）を重層的に理解できる環境を整備する。
 - ・あわせて、宝物の解説を多言語化し、現地表示（要約）とQR等による深掘り情報の二層構造で提供することで、文化についての理解を深める解説・紹介機能を強化する。
- 2 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）**
- ・熊本県立美術館-水前寺成趣園-参道を一体として情報提供するポータル化、現地QR等による統一導線、混雑・回遊に資する情報提供を整備し、ICT活用を一層充実させる計画である。
 - ・来園者満足度（体験価値、案内、サービス等）および関係者満足度を毎年度把握し、分析・評価・改善策実装までを制度化する計画である。
- 3 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）**
- ・外国人観光客の来訪状況に応じ、多言語解説・案内表示の拡充を図り、入門／深掘りの二層構造で理解促進を行う計画である。

■泰勝公肖像



■忠利公御筆



■脇差 無銘 伝備州長船盛光作
『彫貫盛光』（忠興所用）



■藤孝公初陣の図



■波奈之丸図



■水前寺御茶屋図



■黒漆塗牡丹獅子蒔絵鞍



※ 出水神社所蔵の宝物の一部です。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

1 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

- ・計画上、県・市・水前寺成趣園（出水神社）・熊本県立美術館・熊本国際観光コンベンション協会（DMO 機能）等が参画する協議会を設置し、進捗管理・評価・次年度案策定を行う枠組みである。
- ・熊本国際観光コンベンション協会は、水前寺参道内の「水前寺肥後細川文化発信拠点 湧水亭」を観光拠点として位置付け、案内・情報提供等を担う体制を有している。

2 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

- ・観光関係団体・事業者及び関係行政部局と、情報共有及び広報面の連携を進めている。
- ・来訪傾向や混雑状況に関する情報交換を通じ、繁忙期の受入調整や回遊導線の案内改善に取り組んでいる。

3 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

- ・繁忙期の受入調整や回遊導線の案内改善など、運営上の課題に応じて改善を行っている。
- ・関係者との情報共有に基づき、広報面の連携を進めている。

本計画における取組

1 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

- ・熊本国際観光コンベンション協会等の文化観光推進事業者と連携し、参道・周辺事業者を含む受入環境改善、回遊促進、情報発信を統合して進める計画である。
- ・協議会の下で、館・園・観光関係者間の共通KPI（回遊率・満足度等）を整備し、年次評価会合によりPDCAを回す計画である。

2 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

- ・文化観光推進事業者（熊本国際観光コンベンション協会（DMO機能）等）と連携し、入園者数、属性、滞在状況、満足度等の基礎データを継続的に収集・整理するものである。
- ・繁忙期の受入調整及び導線改善に資するため、時間帯別の混雑傾向、滞留箇所、問い合わせ内容等を収集・整理し、文化観光推進事業者が有する観光動向データと合わせて分析するものである。
- ・熊本県立美術館—水前寺成趣園連携の効果検証に資するため、共同企画の参加者数、相互回遊の状況（水前寺成趣園→熊本県立美術館、熊本県立美術館→水前寺成趣園）、参道・周辺への波及状況（案内所利用等）を関係者で共通化し、収集・整理するものである。
- ・収集したデータは協議会において共有し、繁忙期対応、案内改善、回遊促進施策の立案に活用するものである。

3 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

- ・文化観光推進事業者と連携し、庭園景観の価値に加え、肥後細川文化等の物語を来園体験に統合し、理解促進と回遊を生む事業方針を策定するものである。
- ・KPIは、文化観光推進事業者と共通の指標として、入園者数・満足度、共同企画の実施件数・参加者数、相互回遊率、情報発信の成果等を設定するものである。
- ・水前寺成趣園固有の管理指標として、混雑の平準化に関する指標、案内改善の成果等を設定し、共通指標と併せて運用するものである。
- ・年度当初に事業計画とKPI目標を設定し、年度中に進捗を共有し、年度末に実績を評価する運用を協議会で確立するものである。
- ・評価結果に基づき、繁忙期の受入調整、回遊導線案内、解説・表示、共同企画内容、広報手法等の改善策を整理し、次年度計画へ反映するPDCAサイクルを確立するものである。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携
現状の取組 ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 民間事業者、教育研究機関、交通・流通事業者等と、限定的な共同企画や情報発信を実施している。園・周辺施設間の回遊を促す企画は一部に留まっているが、実施の基盤は形成されつつある。
本計画における取組 ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 本計画では、前号に掲げる者以外の文化観光推進事業者と協働し、地域の文化観光推進に関する事業の企画及び実施を本格化させる。年間を通じた共通テーマ企画、共通パス又はデジタルスタンプの導入、二次交通・徒歩回遊の「見える化」、コンテンツ共創及びデータ提供の協力体制を整備し、共同事業の年次実施を通じて相互送客と滞在時間延伸を図る。これらは施行規則が規定する第2号の連携事項に適合する。

8. 地域文化観光推進事業

8-1. 事業の内容

本計画における文化観光推進事業は、第4章で整理した課題、すなわち、①展示・解説の魅力不足、②インバウンド対応の不足（多言語・キャッシュレス等）、③回遊性・導線の弱さ、④情報発信・ブランドの統一性不足、⑤収益構造と再投資の仕組みの弱さに対応するために実施するものである。

本計画では、中核となる文化観光拠点施設である熊本県立美術館及び水前寺成趣園において、第7章に記載した取組の具体化を図るとともに、熊本城エリアと水前寺エリアを結ぶ文化回遊ゾーン全体を対象として、文化資源の魅力増進、利便の増進、地域事業者等との連携、国内外への発信及びこれらを支える施設・設備整備を一体的に推進する。

これにより、肥後細川文化の中核をなす「武×文×水」の価値を、来訪前から現地体験、さらには回遊・滞在へとつながる一連の体験として提示し、来訪者の文化理解、満足度、回遊率及び滞在価値の向上を図るとともに、文化の振興を起点とした観光の振興、地域の活性化及び再投資の好循環の創出を目指す。

8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	水前寺成趣園魅力強化事業
事業内容	本事業は、水前寺成趣園において、庭園・出水神社・古今伝授の間等を一体の文化空間として理解できるよう、常設的な解説・紹介機能の充実を図るものである。具体的には、来訪者が現地で直感的に理解できる導入解説に加え、より深い学びにつながる二層解説（入門／深掘り）を整備し、常設展示又は常設的なミニ展示、資料閲覧、QRによる深掘り解説、音声解説、多言語解説等を組み合わせて、庭園体験と連動した理解促進環境を整備する。これにより、肥後細川文化に関する理解を深め、園内滞在時間の延伸及び周辺施設への回遊促進を図る。 常設的な解説・紹介機能の整備により、水前寺成趣園の文化的価値や肥後細川文化の物語が来訪者に伝わりやすくなり、満足度の向上、再訪意向の喚起、周辺施設への回遊促進につながる。とりわけ、本事業が重視する常設的な展示・解説の充実に直接資する取組として、文化観光拠点施設の機能強化に寄与する。 ※施設・設備の改修等のハード整備は、8-1-5（事業番号 5-①）で整理する。
実施主体	出水神社（水前寺成趣園）
実施時期	令和10年度～令和11年度
継続見込	計画期間終了後は自主財源や入園料収入等を活用して継続的な運用を図る。
アウトプット 目標	①入門／深掘りの二層解説に基づく常設解説の整備 ②多言語解説（英語・中国語〔簡体字／繁体字〕・韓国語等）の整備 ③QR等による深掘り導線及び音声解説手法の整備・試行 ④来園者の理解度・満足度・回遊意欲の向上
必要資金 調達方法	10.0 百万円 [内訳] 入園料 3.4 百万円(自主財源)、6.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 1-②)

事業名	熊本県立美術館 常設展示魅力強化事業
事業内容	熊本県立美術館（本館）における細川コレクションの特徴を、「入門（導入）→深掘り（背景・解釈）」の二層解説を基本に、肥後細川文化（武×文×水）のストーリーが理解できる導入解説・長文解説等を整備する。 本事業は、事業番号 1-③で策定する「サイン用共通コンテンツ仕様（用語・表記・文章トーン・多言語基準・二層解説設計・QR 先テンプレート等）」を、館内外の

	主要解説（館内導入解説、配布物、Web/QR 先解説、教育普及教材等）に横展開し、用語・表記・翻訳品質・トーンを統一する。 あわせて、主要解説文をコーパス（用語集・固有名詞・人物/年表の基礎情報・図版管理の基本ルールを含む）として整備する。 また、展示内容をより充実させ、肥後細川文化の魅力をより明確に伝えるべく、以下の細川家にまつわる文化財を修復し、さらなる展示活用を図る。 ・《寿松柏文蒔絵鞍・鎧》（R8 年度修復） ・《細川忠利像》（R9～R10 年度修復） ・《啓室像》（R9～R10 年度修復） ・雲谷等顔筆《山水図屏風》（R10～11 年度修復） これにより、来館者が肥後細川文化の背景や熊本県立美術館と水前寺成趣園との文化的連続性をより深く理解できるようになり、文化理解の深化、満足度の向上及び相互回遊の促進につなげる。 ※展示ケース・照明等の改修や館内設備整備などハード整備は、8-1-5（該当する設備整備事業）で整理する。
実施主体	熊本県
実施時期	令和8年度～令和11年度
継続見込	計画期間終了後は、自主財源や入館料収入等により、解説更新（改訂・増補）を継続することを検討する。
アウトプット 目標	①二層解説（入門／深掘り）に基づく導入解説の整備 ②主要解説文コーパス（用語集・固有名詞表記・人物/年表の基礎情報・図版管理ルールを含む）の整備 ③多言語解説（対象言語は1-③の方針に合わせる）の整備 ④館—園—城の相互回遊や理解度に関する指標の改善（目標 KPI に接続）
必要資金 調達方法	29.1 百万円 〔内訳〕 入館料 9.7 百万円（自主財源）、19.4 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）

（事業番号 1－③）

事業名	文化回遊案内サイン（コンテンツ）整備事業（多言語・QR・更新運用）
事業内容	本計画の二拠点（熊本城エリア・水前寺エリア）の回遊を促進し、来訪者が「肥後細川文化（武×文×水）」のストーリーを理解しながら移動できるよう、屋外案内サインの“コンテンツ（情報設計）”を整備する。具体的には以下のとおり。 ① 日本語／英語／簡体字／繁体字／ハングルの5言語で、要約（現地で読む）＋深掘り（QR 先で読む）の二層構造を基本とした解説・案内文を作成する。 ② 更新頻度の高い情報（イベント、ルート、営業時間、混雑等）はQR 先（デジタル）で更新できる設計とし、板面の更新を最小化する。 ③ QR 遷移先はスマホ最適を原則とし、PC 閲覧は県が整備する公式ポータルサイトへの誘導・役割分担を前提に、二重投資を避ける。 ④ 必要に応じて、デジタルサイネージ等の活用可能性を検討し、更新運用（誰が、いつ、どう直すか）を協議会の運営ルールに組み込む。 ⑤ 単年度ごとの公募（プロポーザル）実施を前提に、初年度（令和8年度）に「共通コンテンツ仕様」（用語・表記・ピクト・文章トーン・多言語基準・QR 先プレート・更新手順）を確定し、以後の年度実施でも一貫性を確保する。 【対象範囲】 本事業（1－③）は、水前寺エリア（令和8年度）および熊本城周辺エリア（令和9年度）における「案内サインのコンテンツ整備」を対象とする。 結節点（乗換・分岐・迷いポイント）における案内整備は、事業番号2－②において一体的に整理する（本事業の共通コンテンツ仕様を適用）。

	これにより、来訪者が肥後細川文化の背景や拠点間の関係性をより深く理解できるようになり、文化理解の深化、満足度の向上及び回遊意欲の喚起につなげる。 ※サイン本体の製作・設置・撤去・更新等の設備整備は、事業番号５－④に再掲する。
実施主体	熊本市
実施時期	令和８年度～令和９年度（令和８年度：水前寺エリア／令和９年度：熊本城周辺エリア）
継続見込	共通仕様に基づく更新・増補は、次年度以降も継続実施する（必要に応じて事業拡張）。
アウトプット目標	①サイン用共通コンテンツ仕様（用語・表記・ピクト・文章トーン・多言語基準）の策定 ②5言語の解説・案内テキスト式（サイン掲出用＋QR遷移用）の整備 ③QR遷移先のスマホ最適ページ整備（テンプレート化、更新手順の確立）
必要資金調達方法	20.0百万円（ソフト＋ハード） 令和８年度：水前寺エリア 10.0百万円（ソフト＋ハード合算。ハードの内容は５－④に記載） 令和９年度：熊本城エリア 10.0百万円（ソフト＋ハード合算。ハードの内容は５－④に記載） 〔内訳〕自己資金 6.7百万円（宿泊税等）、13.3百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金） ※上記「年度枠（合算）」のうち、本事業（１－③）に係るソフト分の内訳は、年度内の実施内容確定後に精査する。

（事業番号１－④）

事業名	出水神社記念館機能整備検討事業
事業内容	本事業は、出水神社記念館について、宗教施設としての特性や「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との整合に十分配慮しつつ、水前寺成趣園の理解促進を補完する資料閲覧・解説機能のあり方を整理する検討事業として実施するものである。具体的には、出水神社が保有・継承する資料の閲覧環境、解説素材の整理方針、来訪者導線に応じた解説提供のあり方、既存施設の活用可能性、運用体制及び段階的整備の進め方を整理し、次年度以降の実装につながる整備方針及びロードマップを策定する。なお、常設展示や常設的なミニ展示については、当該施設の性格や運営条件を踏まえ、実現可能性を慎重に見極める対象として位置づけ、本事業では実装そのものではなく、必要条件・手法・運用面を整理することに重点を置く。 本事業により、出水神社記念館について、無理のない運用が可能な資料閲覧・解説機能の方向性が明確となり、水前寺成趣園における展示・解説機能との役割分担が整理される。これにより、来訪者に対する情報提供の質を段階的に高めるとともに、将来的な整備投資の妥当性や継続性を確保しながら、文化観光拠点としての理解促進機能の充実につなげる。
実施主体	出水神社（水前寺成趣園）
実施時期	令和11年度～令和12年度
継続見込	計画期間中に整理した整備方針をもとに、次年度以降の施設整備・展示整備・運用改善へ段階的に反映する。
アウトプット目標	①記念館機能に関する整備方針の策定 ②資料閲覧・解説機能に関する運用条件及び役割分担の整理 ③既存施設活用を含む複数の候補案の比較検討 ④次年度以降の段階的整備に向けたロードマップの作成 ⑤水前寺成趣園側の解説・展示機能と連動するための基本方針の整理

必要資金 調達方法	25.0 百万円 [内訳] 入園料・協賛金 8.4 百万円(自主財源)、16.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金) ①リニューアル工事費 15 百万円 (R11) ②調度品整備費 5 百万円 (R12) ③展示物設置費 5 百万円 (R12)
--------------	--

(事業番号 1-⑤)

事業名	水前寺地区記念館回遊性事業
事業内容	水前寺地区に点在する記念館等の文化施設を結び、地域内の回遊性の向上を図ることを目的として、秋季および冬季を中心に、企画展示や連携事業などの継続的な取組を展開する。 本事業は、単発的な催事にとどまらず、記念館相互の共通テーマ展示、案内導線、解説素材の共有を通じて、来訪者が水前寺地区の文化資源を継続的に周遊し、理解を深められる環境づくりを進めるものである。
実施主体	熊本市
実施時期	令和 8 年度～
継続見込	自主財源のほか、地域の協力や協賛等により継続可能。
アウトプット 目標	① 記念館入館者数の増加 ② 記念館認知度の向上
必要資金 調達方法	8 百万円 [内訳] 自己資金 3.2 百万円(自主財源)、4.8 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 1-⑥)

事業名	肥後細川文化の流れを汲む伝統的工芸品魅力発信事業
事業内容	肥後細川文化の流れを汲む伝統的工芸品の常設展示を行うとともに、解説・紹介の整備を行い、インバウンド向けの室内装飾、多言語対応等を実施する。また、熊本県立美術館、永青文庫等と連携し、「肥後細川文化と工芸の美（仮称）」特別展を開催する。具体的には、館内には常設展示のスペースを設け、来館者がまず基礎を理解できる安定した学習の場を提供する。これとは別に、期間を限定した特別展の開催を計画している。特別展は期間限定ながら、シリーズとして複数年にわたり展開し、毎年テーマを段階的に深めながら、肥後細川文化と伝統的工芸との関連を多様な側面から紹介する予定。
実施主体	熊本県
実施時期	令和 9 年度～令和 10 年度
継続見込	計画期間終了後も既存の展示運営や自主財源等により継続的な活用・更新を検討する。
アウトプット 目標	① 解説・紹介の整備 ② 特別展の実施 ③ 多言語対応
必要資金 調達方法	10.0 百万円 [内訳] 3.4 百万円（自主財源）、6.6 百万円（文化庁、文化芸術振興費補助金）

(事業番号 1-⑦)

事業名	肥後細川文化サテライト展示・多言語解説整備事業
事業内容	くまもと文学・歴史館において、熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）及び水前寺成趣園の理解を補完し、相互送客を促進するため、肥後細川文化に関する歴史資料・文学資料等を活用した常設的なサテライト展示機能を整備する。展示は、来訪者

	が「武×文×水」の地域ストーリーを理解し、熊本県立美術館・水前寺成趣園へ回遊するきっかけとなるよう構成し、展示解説は入門（要約）／深掘り（背景・解釈）の二層構造とする。あわせて、主要解説については英語・中国語（簡体字／繁体字）・韓国語等の多言語化を段階的に進め、現地表示とQR等による深掘り情報を一体で提供する。なお、多言語解説文は観光庁指針「How To 多言語解説文整備」に沿って制作する。 これにより、来訪者が肥後細川文化の背景や拠点間の関係性をより深く理解できるようになり、文化理解の深化、満足度の向上及び回遊意欲の喚起につなげる。
実施主体	熊本県
実施時期	令和10年度～令和11年度
継続見込	計画期間終了後も、既存展示更新や自主財源による改訂等を通じて継続を検討する。
アウトプット目標	①肥後細川文化に関するサテライト展示の常設化又は常設的ローテーション実施 ②二層解説（入門／深掘り）の整備 ③多言語解説の整備 ④熊本県立美術館・水前寺成趣園への回遊誘導表示・案内導線の整備
必要資金 調達方法	7.2百万円 [内訳] 自己資金 2.4百万円(自主財源)、4.8百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 1－⑧)

事業名	水前寺エリア文化回遊導入・送客促進事業
事業内容	こども本の森 熊本及び県立図書館・くまもと文学・歴史館を活用し、肥後細川文化（武×文×水）の導入解説、文化体験導入プログラム、周辺施設案内を一体的に実施することにより、水前寺成趣園、熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）等への回遊を促進する。 本事業では、家族連れを含む地域外からの来訪者を主対象として、 ①肥後細川文化に関する絵本・関連書籍・資料を活用した導入展示・導入解説 ②茶道（肥後古流）、能楽、肥後六花、盆石、熊本城建築等をテーマとした短時間・反復実施型の文化体験導入プログラム なお、体験プログラムは単発イベントではなく、年間を通じて反復実施可能な導入型プログラムとして設計し、来訪者の文化理解を深めるとともに、現地施設での本格的な鑑賞・体験へ接続させる。 これにより、来訪者が肥後細川文化の背景や拠点間の関係性をより深く理解できるようになり、文化理解の深化、満足度の向上及び回遊意欲の喚起につなげる。
実施主体	熊本県
実施時期	令和9年度～令和11年度
継続見込	既存案内物の更新等により継続実施を検討する。
アウトプット目標	① 肥後細川文化に関する導入展示・導入解説の実施 ② 茶道・能楽・肥後六花・盆石・熊本城建築等をテーマとした導入型文化体験プログラムの反復実施 ③ 参加者の回遊率・理解度・満足度の向上
必要資金 調達方法	8.1百万円 [内訳] 自己資金 2.7百万円(自主財源)、5.4百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	デジタル文化回遊パス導入・周遊促進事業
事業内容	熊本城エリア（熊本城・熊本博物館・わくわく座等）と熊本県立美術館、水前寺成趣園を対象に、回遊促進のための共通パス（デジタルを基本）を導入する。 現在運用している共通入園券（例：熊本城・わくわく座・熊本博物館の共通券等）をベースに、熊本県立美術館および水前寺成趣園を追加した形での共通券化（紙・デジタル双方）を検討・実装する。 また、Web チケット（例：オンラインサービス等）を活用した事前購入導線を整備し、当日の窓口混雑の緩和と回遊の促進を図る。 ① 共通券の券種設計（対象施設・料金・有効期間・利用条件）および収入配分・精算方法の整理 ② 販売場所（窓口）における紙券の券面・運用変更、案内掲出等の更新 ③ Web チケット（オンライン）における販売ページ・説明文・FAQ 等の情報更新、必要に応じた発券・認証手順の整備 ④ 共通券導入に伴う周遊促進施策（モデルルート提示、特典設計等）の検討 ※本事業は「回遊性向上（移動利便性向上）」を目的とし、案内サイン整備とは別枠で、チケット・パスによる回遊促進を担う。 これにより、国内外の来訪者が必要な情報に迷うことなくアクセスできる環境を整え、拠点間・周辺施設間の移動の分かりやすさを高めることで、回遊率の向上と滞在時間の延伸を図る。
実施主体	熊本市
実施時期	令和9年度
継続見込	導入後は、販売実績・運用負荷・利用者満足度等を検証し、運用の継続・改善を行う。
アウトプット 目標	①共通パス（共通券）の券種設計・運用開始（紙／デジタルの両対応） ②参加施設・販売導線（窓口／オンライン）の整備（必要な情報更新・運用変更の完了） ③周遊促進に関する効果確認（利用実績、回遊率、窓口待ち時間等の改善）
必要資金 調達方法	10.0 百万円 〔内訳〕 自己資金 3.4 百万円（宿泊税等）、6.6 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）

(事業番号2-②)

事業名	結節点（市電乗り場等）案内の整備・デザイン統一事業
事業内容	熊本城エリアと水前寺エリアの回遊において、乗換・分岐・迷いポイントとなる結節点（市電乗り場、主要バス停、導線分岐点等）で、国内外の来訪者の移動利便を高めるため、案内表示の整備を行う。本事業は、表示内容の設計（ソフト）と、表示物の製作・設置（ハード）を一体的に実施する。 【ソフト（表示内容・ルール整備）】 ①事業番号1-③で策定した共通コンテンツ仕様（用語・表記・ピクト・文章トーン・多言語基準・地図表現等）を適用し、結節点に必要な表示内容（目的地、方向、所要目安、乗換案内等）と配置ルールを整理する。 ②QR を活用し、現地は要約、QR 先で深掘り情報を提供する二層構造を適用する。 【ハード（製作・設置・撤去更新）】 ①上記ソフトで整理した内容に基づき、結節点の案内表示を製作・設置し、必要に応じて既存表示の撤去・更新を行う。 ②視認性、安全性、ユニバーサルデザイン、景観調和、耐候性・交換性に配慮する。

	これにより、国内外の来訪者が必要な情報に迷うことなくアクセスできる環境を整え、拠点間・周辺施設間の移動の分かりやすさを高めることで、回遊率の向上と滞在時間の延伸を図る。
実施主体	熊本市
実施時期	令和8年度
継続見込	共通仕様に基づく更新・増補は、次年度以降も継続実施する（必要に応じて事業拡張）。
アウトプット 目標	①結節点案内の統一ルール（表示内容・地図表現・ピクト配置）の策定 ②結節点における案内表示の整備（優先箇所から段階整備） ③結節点における案内の“迷い”低減（アンケート・観測等で確認）
必要資金 調達方法	10.0百万円（ソフト＋ハード） 〔内訳〕 自己資金 3.4 百万円（宿泊税等）、6.6 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）

8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

(事業番号 3-①)

事業名	「肥後細川文化×水」体感型文化回遊プログラム造成・運用事業
事業内容	熊本城エリア—熊本県立美術館—水前寺成趣園を一体の体験として提供し、回遊・滞在・消費を促進するため、体感型プログラムを造成・運用するとともに、その実施に必要なガイド・解説人材育成および早朝・夜間回遊の醸成を一体的に行う（統合事業）。 【1】ガイド・解説人材の育成 ・三拠点共通のガイド・解説者育成制度を整備し、館・園・城「共通台本」（武×文×水の流れ）と安全管理、多言語ガイド基準（英・韓・中）を設定する。 ・定例ツアーの共同運用により、展示・回遊・体験プログラムと一体化して理解度を高める。 【2】体感型文化回遊プログラムの造成 ・茶の湯（肥後古流）、盆石、金工（肥後象がん）、和歌解説、夜間観覧と学芸ミニトーク等をセット化した有料プログラムを造成する。 ・宗教行事・文化財保全への配慮を前提とし、混雑期は発券時間・入園制限を調整する。 【3】早朝・夜間回遊連携の醸成 ・始発市電・宿泊プランと連動して水前寺の早朝開園、館の夜間解説等を試行する。 ・宗教行事・保全・静穏に配慮し、収容・誘導・安全基準を遵守する。 【4】外注モデル事業 ・上記【2】【3】の立上げにあたり、夜間・早朝の特別体験（夜間貸切、早朝祈祷等）を核とした高付加価値コンテンツ造成を外部委託により実施し、次年度以降の自走化（販売・運用）につなげる。 これにより、拠点施設単体では得られない地域全体としての文化体験を形成し、参道・周辺施設・宿泊施設等への波及を通じて、滞在価値及び地域内消費の向上につなげる。
実施主体	（一財）熊本国際観光コンベンション協会
実施時期	令和9年度～令和10年度 ※外注モデル事業は、年度初期に造成～販売開始までを単年度で完結させる。
継続見込	参加料収入・会費・協賛等の一部を展示・多言語・体験開発へ再投資し、会員制度等で拡張を図る（自走化）。
アウトプット 目標	①共通台本（武×文×水）および多言語ガイド基準の整備 ②年間通期プログラムの稼働 ③早朝・夜間回遊連携の醸成（枠設定、参加者数等） ④認定ガイド数、定例ツアー回数、参加者数、満足度（NPS等）の改善
必要資金 調達方法	7.5 百万円 [内訳] 2.5 百万円(自主財源)、5.0 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	海外市場向け文化観光ウェブコンテンツ充実・多言語発信事業
事業内容	海外市場に向けて、熊本城エリア、熊本県立美術館及び水前寺成趣園をめぐる文化観光の理解促進と回遊喚起を図るため、広告出稿を主たる内容とするのではなく、既存の公式ウェブサイト等に掲載する文化観光コンテンツを抜本的に見直し、肥後細川文化を軸とした多言語コンテンツの充実を図る。 本事業では、来訪前の段階から肥後細川文化の物語や各拠点の関係性が理解できるよう、 ①「武×文×水」を基軸としたテーマ別特集記事、 ②熊本にゆかりのある人物や文化資源を切り口としつつ、熊本城、熊本県立美術館、水前寺成趣園とのつながりが分かる解説記事、 ③二拠点及び関連施設を結ぶモデルルート、 ④来訪前の比較検討に資するアクセス、滞在、体験情報、 ⑤多言語での閲覧に対応したページ構成及び回遊導線を整備する。 記事制作に当たっては、単なる観光情報の列挙にとどまらず、肥後細川文化の背景、美意識、歴史的文脈を来訪者に分かりやすく伝える内容とし、熊本県立美術館における鑑賞と水前寺成趣園における体験が一連の文化回廊として理解できるよう構成する。 なお、本事業は有料広告への出稿を主たる目的とするものではなく、文化観光拠点施設の理解促進及び回遊促進に資する自営媒体の充実を中心に実施するものである。 これにより、来訪前の段階から肥後細川文化に対する理解と関心を高め、来訪動機の形成、文化体験への期待醸成及び現地での回遊・滞在価値の向上につなげる。
実施主体	(一財) 熊本国際観光コンベンション協会
実施時期	令和9年度～令和12年度
継続見込	計画期間終了後も、公式ウェブサイト等における文化観光コンテンツの更新・増補を継続し、協議会構成主体及び関係機関の既存運営体制の中で、多言語記事、モデルルート、体験情報等の充実を図る。
アウトプット目標	①海外市場からの公式サイト等への流入ユーザー数（ユニークユーザー数）の増加 ②多言語特集記事、モデルルート、体験情報ページの閲覧数及び回遊関連ページへの遷移率の向上 ③公式サイト等から各拠点施設紹介ページ、体験予約導線、共通パス情報へのアクセス数の増加
必要資金 調達方法	2.5 百万円 [内訳] 自己資金 0.8 百万円(自主財源)、1.7 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

8-1-5. 1. ～4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

本区分に掲げる施設・設備整備は、単なる環境整備を目的とするものではなく、8-1-1 から 8-1-4 に掲げる展示・解説の充実、回遊促進、多言語案内、体験形成及び情報発信を支える基盤整備として実施するものである。

(事業番号 5-①)

事業名	細川家歴史館整備事業
事業内容	本事業は、事業番号 1-①において整備する常設解説・多言語解説・音声解説等を実装し、水前寺成趣園が文化観光拠点施設として備えるべき解説・紹介機能を支えるために必要な施設・設備の改修及び更新を行うものである。 具体的には、常設解説や導入展示に必要な表示環境、解説導線、QR 等による情報提供環境、資料閲覧環境等について、文化財保全及び景観への配慮を前提として、必要最小限の整備を行う。 また、レプリカ制作については、細川家伝来の宝物・歴史資料のうち、保存上の理由から常時実物展示が困難な資料や、展示ストーリー上、複製による提示効果が高い資料を候補とする。 具体的には、甲冑、能面、古文書、肖像画、刀剣類、九曜紋鐘、五輪書等の中から、所有者及び専門家の意見を踏まえ、必要性、保存上の配慮、展示効果、費用対効果を確認したうえで、必要最小限の範囲に絞り込む。 なお、令和 8 年度～令和 9 年度は「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」に基づく整理・調整期間として位置付け、整備対象、優先順位、施工方法及び運用方法を整理したうえで、令和 10 年度以降に段階的整備を進める。 これにより、上記事業で整備する解説・案内・体験・回遊促進の取組を継続的かつ効果的に実施できる環境を整え、来訪者の理解促進、利便性向上及び滞在価値向上につなげる。 [事業 1-①関連]
実施主体	出水神社（水前寺成趣園）
実施時期	令和 11 年度～令和 12 年度
継続見込	計画期間終了後は、既存の施設管理運営の中で必要な保守・更新を行い、自主財源や入園料収入等を活用して継続的な運用を図る。
アウトプット 目標	①展示館・お休み処改修 ②展示ケース制作設置 ③レプリカ制作
必要資金 調達方法	55.0 百万円 [内訳] 入園料 18.4 百万円(自主財源)、36.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金) ①展示館・お休み処改修工事費 15 百万円 (R11) ②展示ケース制作設置費 20 百万円 (R12) ③レプリカ制作費 20 百万円 (R12) なお、事業費はレプリカ制作費のみではなく、既存施設の展示環境整備、展示ケース、照明、解説設備、閲覧環境整備等を含むものである。 実施に当たっては、展示計画、仕様、制作点数を精査し、複数見積り等により適正価格を確認することで、過大な整備とならないよう費用の妥当性を確保する。

(事業番号 5-②)

事業名	熊本県立美術館（本館） 展示施設改修・設備更新事業
事業内容	8-1-1（1-②）の導入解説強化、8-1-2（2-①）のデジタルパス連携、8-1-4（4-①）のポータル統合に必要な案内端末・デジタルサイネージ（大型モニタ）等を整備する。また、展示において細川コレクションの美術工芸品の魅力をより一層引き出すべく展示ケースを更新し、併せて演色性が高く色温度変更可能な照明器具を導入す

	ることで演出力の増進を図る。国指定等文化財の所蔵公開を行う施設における展示環境改修を伴うため、その旨を明記する。 これにより、上記事業で整備する解説・案内・体験・回遊促進の取組を継続的かつ効果的に実施できる環境を整え、来訪者の理解促進、利便性向上及び滞在価値向上につなげる。 ※基本設計・ゾーニング見直し・工程計画まで [事業 1－②、2－①、4－①関連]
実施主体	熊本県
実施時期	令和 8 年度～令和 10 年度
継続見込	—
アウトプット 目標	① 導入ゾーン整備 ② 多言語端末の整備 ③ 展示ケースの更新・改修 ④ 照明等展示演出用具の拡充
必要資金 調達方法	23.75 百万円 [内訳] 入館料 7.95 百万円(自主財源)、15.8 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 5－③)

事業名	洋学校教師ジェーンズ邸ライトアップ機材等の整備事業
事業内容	文化財保全・景観・安全を最優先とする運用基準を策定し、通年でライトアップを実施する。なお、イベントによっては変色可能なものとする。 これにより、上記事業で整備する解説・案内・体験・回遊促進の取組を継続的かつ効果的に実施できる環境を整え、来訪者の理解促進、利便性向上及び滞在価値向上につなげる。 [事業 1－⑤関連]
実施主体	熊本市
実施時期	令和 9 年度～
継続見込	初期投資のみ
アウトプット 目標	①夜間実施枠の通年化 ②安全基準の達成
必要資金 調達方法	2.0 百万円 [内訳] 自己資金 0.7 百万円(自主財源)、1.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 5－④)

事業名	文化回遊案内サイン（ハード）整備事業（製作・設置・撤去更新）
事業内容	事業番号 1－③で整備する案内コンテンツに基づき、屋外の大看板等の案内サインを製作・設置し、必要に応じて既存サインの撤去・更新を行う。 【対象範囲】 本事業（5－④）は、水前寺エリア（令和 8 年度）および熊本城周辺エリア（令和 9 年度）における「エリア内の案内サイン（ハード）」を対象とする。 結節点（令和 8 年度）の案内表示は、事業番号 2－②においてソフト＋ハード一体で整理するため、本事業（5－④）の対象外とする。 設置にあたっては、視認性、景観調和、夜間視認、安全性（歩行者動線の阻害防止）、ユニバーサルデザイン（ピクト・文字サイズ等）、維持管理（耐候性、交換性）に配慮する。 ※案内文・多言語化・QR 遷移先等のコンテンツ整備は、事業番号 1－③に再掲する。

	[事業1-③関連]
実施主体	熊本市
実施時期	令和8年度～令和9年度（令和8年度：水前寺エリア／令和9年度：熊本城周辺エリア）
継続見込	事業効果を検証し、期間終了後も継続予定（市の予算）
アウトプット 目標	①エリア内案内サインの整備（年度ごとに優先箇所から段階整備） ②案内の“迷い”低減（アンケート・観測等で確認）
必要資金 調達方法	事業番号1-③に記載

（事業番号5-⑤）

事業名	水前寺周辺（参道等）ライトアップ・安全導線整備事業
事業内容	水前寺エリアの参道等（拠点周辺）において、夜間回遊時の安全性・視認性を確保し、来訪者の移動利便を高めるため、必要最小限のライトアップ・安全機材（照明、誘導等）を整備する。 本事業は、夜間においても景観を損なわない「控えめで低グレアな景観照明」と、歩行者の安全・安心の確保を両立することを目的とする。整備は、①参道や藻器堀川等の回遊導線（優先区間）と、②分岐・結節・見どころ（優先点）に区分し、足元照明（区間）とアクセント照明（点）の組合せで段階整備する。灯具基数、配線距離、電源容量、制御方式（タイマー・照度センサ等）は、実施設計（照度・眩しさ評価、景観配慮、維持管理性）により確定する。 これにより、上記事業で整備する解説・案内・体験・回遊促進の取組を継続的かつ効果的に実施できる環境を整え、来訪者の理解促進、利便性向上及び滞在価値向上につなげる。
	[事業2-①関連]
実施主体	熊本市
実施時期	令和10年度
継続見込	効果検証のうえ、必要に応じて更新・増補する。
アウトプット 目標	①夜間回遊時の安全導線（優先区間）の設定 ②優先区間における必要最小限の照明等の整備 ③夜間回遊における安全性・満足度の改善
必要資金 調達方法	30.0百万円 ※対象範囲（優先区間・優先点）と施工条件（掘削・配線・復旧等）により変動するため、実施設計後に精査する。 [内訳] 自己資金 10.0百万円（宿泊税等）、20.0百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）

（事業番号5-⑥）

事業名	くまもと文学・歴史館における肥後細川文化サテライト展示・来訪者閲覧環境整備事業
事業内容	くまもと文学・歴史館において、熊本県立美術館（永青文庫展示室を含む）及び水前寺成趣園の理解を補完し、相互送客を促進するため、肥後細川文化に関する歴史資料・文学資料等を活用したサテライト展示機能を支える来訪者閲覧環境を整備する。 具体的には、 ①来訪者が肥後細川文化（武×文×水）の全体像を理解できる導入解説映像・静止画表示環境、 ②肥後細川関連資料、熊本城・水前寺関連資料等を深掘り閲覧できるタッチ閲覧機能、

	③ローテーション展示や導入プログラムに対応可能な可動式表示環境、 ④多言語解説・QR 閲覧を補助する展示周辺の最小限の通信環境、 ⑤来訪者が安全かつ円滑に当該展示導線を利用できるための最小限のアクセシビリティ補助整備を一体的に実施する。 本事業は、単なる館内設備更新ではなく、熊本県立美術館・水前寺成趣園への送客及び文化理解の深化を目的とするものであり、設備内容・規模は連携施設として必要最小限に限定する。独自のアプリ開発等を行わず、市及び関係機関が整備する既存のポータル・QR 導線と連携して運用する。 これにより、上記事業で整備する解説・案内・体験・回遊促進の取組を継続的かつ効果的に実施できる環境を整え、来訪者の理解促進、利便性向上及び滞在価値向上につなげる。 [事業 1－⑧関連]
実施主体	熊本県
実施時期	令和 9 年度～令和 10 年度
継続見込	効果検証のうえ、必要に応じて更新・増補する。
アウトプット 目標	① 肥後細川文化の導入解説・深掘り閲覧環境の整備 ② 肥後細川関連資料、熊本城・水前寺関連資料の視覚的・多言語的理解促進環境の整備 ③ 熊本県立美術館・水前寺成趣園への送客導線強化による回遊率向上 ④ サテライト展示・導入プログラムの反復実施を支える基盤整備
必要資金 調達方法	14.6 百万円 [内訳] 自己資金 4.9 百万円(自主財源)、9.7 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

(事業番号 5－⑦) * 関連設備として再掲

事業名	出水神社記念館機能整備検討事業
事業内容	水前寺成趣園の主要資源に関する理解促進を補完し、拠点施設として備えるべき解説・紹介機能を強化するため、水前寺エリアにおける常設的な解説拠点（サテライト機能）の整備方針を検討する。 本事業では、出水神社社務所・休憩処等の既存ストック活用可能性を含め、来訪者動線、運営体制、宗教施設としての配慮、「名勝及び史跡水前寺成趣園保存活用計画」との整合を踏まえ、常設展示、ミニ展示、導入展示、資料閲覧、音声・デジタル解説等を組み合わせた実現手法を整理する。なお、本事業は、水前寺成趣園が文化観光拠点施設として備えるべき「常設的な理解促進機能」の充実に資する検討事業として位置付ける。 [事業 1－④関連]
実施主体	出水神社（水前寺成趣園）
実施時期	令和 11 年度～令和 12 年度
継続見込	計画期間中に整理した整備方針をもとに、次年度以降の施設整備・展示整備・運用改善へ段階的に反映する。
アウトプット 目標	①整備方針（目的・対象・運用体制・概算規模・段階整備方針）の策定 ②既存施設活用を含む候補案（複数案）と実施ロードマップの作成 ③1-③の共通仕様に準拠した解説素材の試作（ミニ展示・解説コーナー等）
必要資金 調達方法	事業番号 1－④に記載

8-2. 特別の措置に関する事項

8-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実施の方法（※）	
工事期間（※）	
復旧方法（※）	
関係協議先	

8-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和8年度	33.25 百万円	事業番号 1－②	5.1 百万円	1.7 百万円 (自主財源)、3.4 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－③	10.0 百万円	3.4 百万円 (宿泊税等)、6.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑤	8.0 百万円	2.7 百万円 (宿泊税等)、5.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 2－②	10.0 百万円	3.4 百万円 (宿泊税等)、6.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－②	0.15 百万円	0.05 百万円 (自主財源)、0.1 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
令和9年度	52.7 百万円	事業番号 1－②	7.0 百万円	2.4 百万円 (自主財源)、4.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－③	10.0 百万円	3.4 百万円 (宿泊税等)、6.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑥	5.0 百万円	1.7 百万円 (自主財源)、3.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑧	4.7 百万円	1.6 百万円 (自主財源)、3.1 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 2－①	10.0 百万円	3.4 百万円 (宿泊税等)、6.6 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 3－①	7.5 百万円	2.5 百万円 (自主財源)、5.0 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－②	3.6 百万円	1.2 百万円 (自主財源)、2.4 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－③	2.0 百万円	0.7 百万円 (宿泊税等)、1.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－⑥	2.9 百万円	1.0 百万円 (自主財源)、1.9 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
令和10年度	97.1 百万円	事業番号 1－①	5.0 百万円	1.7 百万円 (自主財源)、3.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－②	17.0 百万円	5.7 百万円 (自主財源)、11.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑥	5.0 百万円	1.7 百万円 (自主財源)、3.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑦	4.2 百万円	1.4 百万円 (自主財源)、2.8 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑧	1.7 百万円	0.6 百万円 (自主財源)、1.1 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 4－①	2.5 百万円	0.8 百万円 (自主財源)、1.7 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－②	20.0 百万円	6.7 百万円 (自主財源)、13.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－⑤	30.0 百万円	10.0 百万円 (宿泊税等)、20.0 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 5－⑥	11.7 百万円	3.9 百万円 (自主財源)、7.8 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
令和11年度	39.7 百万円	事業番号 1－①	5.0 百万円	1.7 百万円 (自主財源)、3.3 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－④	15.0 百万円	5.0 百万円 (自主財源)、10.0 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)
		事業番号 1－⑦	3.0 百万円	1.0 百万円 (自主財源)、2.0 百万円(文化庁・文化芸術振興費補助金)

		事業番号 1－⑧	1.7 百万円	0.6 百万円（自主財源）、1.1 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）
		事業番号 5－①	15.0 百万円	5.0 百万円（自主財源）、10.0 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）
令和 12 年度	50.0 百万円	事業番号 1－④	10.0 百万円	3.4 百万円（自主財源）、6.6 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）
		事業番号 5－①	40.0 百万円	13.4 百万円（自主財源）、26.6 百万円（文化庁・文化芸術振興費補助金）
合計	272.75 百万円			

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

9. 計画期間

令和 8 年度（2026 年度）から令和 1 2 年度（2030 年度）まで（5 か年）